

前橋赤十字病院 公的医療機関等2025プラン(第3版)



2017年(平成29年)	10月	策定
2019年(令和元年)	10月	一部改定
2020年(令和2年)	1月	一部改定

目次

	(ページ)
はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1. 公的医療機関等2025プラン策定の背景	
(1) 厚生労働省の考えと動き	
(2) 群馬県の考えと動き	
(3) 地域医療構想調整会議の役割	
(4) 日本赤十字社の考えと動き	
2. 公的医療機関等2025プラン策定の主な項目	
3. 公的医療機関等2025プラン策定に向けた前橋赤十字病院の動き	
第1章 前橋赤十字病院の基本情報・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第2章 前橋構想区域の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	5
1. 前橋構想区域の現状	
(1) 地域の人口及び高齢化の推移	
(2) 地域の医療需要の推移	
(3) 4機能ごとの医療提供体制の特徴	
(4) 地域の医療需給の特徴	
(5) 在宅医療等の医療需要	
2. 前橋構想区域の課題	
(1) 病床の機能分化・連携の推進	
(2) 在宅医療・介護サービスの充実	
第3章 前橋赤十字病院の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・	10
1. 理念と基本方針	
2. 届出入院基本料	
3. 患者の推移について	
4. 職員の基本情報(2019年12月1日現在)	
5. チーム医療の充実について	

6. 看護師教育の充実について
 - (1) 教育理念
 - (2) 教育目標（期待される看護師像）
7. 医療安全への取組み
 - (1) 委員会およびカンファレンス
 - (2) インシデント・アクシデント事例の収集、分析、管理
 - (3) 医療安全ラウンド
 - (4) 医療安全推進者会議の運営
8. 感染対策への取組み
 - (1) ICT（インフェクション・コントロール・チーム）
 - (2) 感染対策委員会
 - (3) 細菌検査室
9. ISO9001認証の取得について
10. ISO15189（臨床検査室）認定について
11. 地域がん診療拠点病院の指定について
12. 救急医療体制の充実について
 - (1) 高度救命救急センター
 - (2) ドクターヘリ
 - (3) ドクターカー
 - (4) 地域病院救急車
 - (5) 第3次救急医療機関として
13. 災害医療体制の充実について
 - (1) 赤十字救護班
 - (2) 日本DMAT登録者
 - (3) 統括DMAT登録者（医師）
14. 前橋赤十字病院の診療領域（疾患）の特徴
15. 前橋赤十字病院の病棟別の特徴
 - (1) 病棟構成
 - (2) 一般病床 重症度、医療・看護必要度（急性期一般入院料1）
 - (3) 入院診療単価（急性期一般入院料1）
16. 前橋赤十字病院の担う政策医療
 - (1) 5疾病・5事業の医療体制
 - (2) 在宅医療への支援体制と連携体制
17. 前橋赤十字病院の立ち位置（第三者評価として）
18. 前橋赤十字病院の今後の課題
 - (1) 病床機能報告における立ち位置
 - (2) 地域医療の現状と照らし合わせた課題

第4章 今後の方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

1. 地域において今後担うべき役割
 - (1) 第3次救急病院としての役割
 - (2) 地域医療支援病院としての役割
 - (3) 在宅医療や介護との連携における役割
 - (4) 地域医療構想を踏まえた新たな役割
 - (5) その他
2. 今後持つべき病床機能
 - (1) 高度急性期機能の強化（2018年6月～）
 - (2) 高度急性期機能を補完する機能の新規設置（2018年6月～）
3. 身体合併精神科病棟を担う理由
4. その他見直すべき点

第5章 具体的な計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

1. 4機能ごとの病床のあり方について
 - (1) 今後の方針
 - (2) 病棟機能の重点的な継続強化と新設
 - (3) 将来（2025年度）について
2. 診療科の見直しについて
3. 群馬県地域医療介護総合確保基金の活用について
4. その他の数値目標（2025年度）について
 - (1) 医療提供に関する項目
 - (2) 経営に関する項目

第6章 新病院建設（2018年6月1日移転）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

1. 新病院建設について
2. 計画概要
3. 主たる医療機能
 - (1) 高度救命救急センター機能
 - (2) 高度急性期・地域医療支援病院機能
 - (3) 地域周産期母子医療センター機能
 - (4) 基幹災害拠点病院機能
 - (5) がん診療連携拠点病院機能
 - (6) 身体合併症対応の精神科病床機能
 - (7) 回復期病床機能

4. 医療機能の充実・強化内容
 - (1) 救急医療の充実
 - (2) 災害医療の充実
 - (3) 入院・退院支援、各種相談、医療連携の強化
 - (4) がん治療の強化
 - (5) 外来診療・入院環境の充実
5. 新病院の基本方針
 - (1) コンセプト『みんなにとってやさしい、頼りになる病院』
 - (2) 患者、家族へのやさしさ
 - (3) 環境へのやさしさ
 - (4) 職員へのやさしさ
 - (5) 働きやすさへの対応
 - (6) 患者・家族やサポーターにとって頼りになる病院
6. 新病院の建設過程
7. 新病院の構成

第7章 その他の実績について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

1. 手術室統計
 - (1) 予定緊急別手術件数
 - (2) 麻酔別手術件数
 - (3) 手術稼働率
2. 産婦人科統計
 - (1) 分娩件数（22週以降）
 - (2) 手術件数
3. 院内がん登録統計
4. その他の統計
 - (1) 人件費率
 - (2) 医療収益に占める人事育成にかかる費用の割合
5. 救護班等の派遣状況
 - 2016年度
 - (1) 熊本地震災害派遣（2016年4月14日、4月16日）
 - 2017年度
 - (1) 草津白根山噴火災害（2018年1月23日）
 - 2018年度
 - (1) 西日本豪雨災害（2018年6月28日～7月8日）
 - (2) 群馬県防災ヘリ墜落事故（2018年8月10日）
 - (3) 北海道胆振東部地震（2018年9月6日）

はじめに

1. 公的医療機関等2025プラン策定の背景

人口減少や少子高齢化が急速に進展する中で、将来に向けて医療需要が大きく変化することが見込まれており、地域ごとに適切な医療提供体制の再構築に取り組んでいくことが必要となっています。

そのような背景から、前橋赤十字病院では厚生労働省からの提示をもとに、群馬県、日本赤十字社（本社）、日本赤十字社群馬県支部等の各機関と連携・協議し、本プランを策定します。

(1) 厚生労働省の考えと動き

公的医療機関等を始めとする医療機関が、他の医療機関に率先して、地域医療構想の達成に向けた将来の方向性を示していくことを重要だと考えています。

また、「経済財政運営と改革の基本方針2017」（2017年6月9日閣議決定）においても、個別の病院名や転換する病床数の具体的な対応方針を速やかに策定するため、2年間程度で集中的な検討を促進することとされています。

それを受けて各医療機関においては、地域医療構想調整会議における具体的な議論の促進に資するよう策定した「公的医療機関等2025プラン」を地域医療構想調整会議に提示し、具体的な議論を進め、地域の他の医療機関との役割分担や連携体制も含めた上で、構想区域全体における医療提供体制との整合性を図ることとしています。

(2) 群馬県の考えと動き

各都道府県では、2017年3月までに地域医療構想の策定を完了しており、今後、その達成に向けて、構想区域ごとに、地域医療構想調整会議を開催し、関係者による議論を進めていくこととなります。

群馬県においては、地域保健医療対策協議会を地域医療構想調整会議に位置付けています。

(3) 地域医療構想調整会議の役割

地域医療構想調整会議における具体的な議論の進め方については、2016年12月、「医療計画の見直し等に関する検討会議」において意見がとりまとめられました。その中で将来の医療提供体制を構築していくための方向性を共有するため、まずは、地域における救急医療、小児医療、周産期医療等の政策医療を担う中心的な医療機関から、その役割の明確化を図り、その他の医療機関については、中心的な医療機関が担わない機能や、中心的な医療機関との連携等を踏まえ、役割の明確化を図ることとされています。

(4) 日本赤十字社の考えと動き

日本赤十字社においては、赤十字病院グループとしての理念、基本方針を定め、中期目標、中期計画等を策定し、赤十字としての特色を発揮しつつ、地域医療に貢献するものです。

地域医療構想については、赤十字病院グループの理念等を踏まえ、地域における公的医療機関としての役割、将来のあり方を十分検討し、支部と調整のうえ、地域医療構想の達成に向けて積極的に参画することとします。

「公的医療機関等2025プラン」策定の取り組みについては、日本赤十字社の医療、介護、福祉との連携のあり方を考慮しつつ、各地域の実績にあったプランを策定します。

2. 公的医療機関等2025プラン策定の主な項目

構想地域の現状と課題、自施設の現状と課題、今後の方針として地域において今後担うべき役割や持つべき病床機能、具体的な計画として4機能ごとの病床のあり方や診療科の見直し、病床稼働率等の数値目標等で構成されます。

3. 公的医療機関等2025プラン策定に向けた前橋赤十字病院の動き

院内に『公的医療機関等2025プラン』策定検討会議を設置し、医師、看護師、社会福祉士、その他事務職代表との協議を行い、プランの作成を行いました。また、各診療科部をはじめ、各部門への周知を行いました。

今後は、群馬県との協議・調整を重ねるとともに、前橋構想地域の中にある前橋赤十字病院として、地域包括ケアシステムに向けた院内の更なる体制作りを進めます。

第1章 前橋赤十字病院の基本情報

医療機関名	前橋赤十字病院	(2019年12月1日)
開設主体	日本赤十字社本社 大塚 義治	
所在地	群馬県前橋市朝倉町389番地1	

許可病床数	555床		(2019年12月1日)
(病床の種別)	一般	527床	
	療養	0床	
	結核	0床	
	精神	22床	
	感染症	6床	
(病床機能別)	高度急性期	487床	
	急性期	0床	
	回復期	40床	
	慢性期	0床	
	休床等	0床	
	精神	22床	
	感染症	6床	

稼働病床数	555床		(2019年12月1日)
(病床の種別)	一般	527床	
	療養	0床	
	結核	0床	
	精神	22床	
	感染症	6床	
(病床機能別)	高度急性期	487床	
	急性期	0床	
	回復期	40床	
	慢性期	0床	
	精神	22床	
		感染症	6床

診療科目（標榜診療科）【31科】 (2019年12月1日)

総合内科、感染症内科、糖尿病・内分泌内科、リマウチ・腎臓内科、血液内科、精神科、
 神経内科、呼吸器内科、消化器内科、外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管内科、小児科、
 整形外科、形成・美容外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、
 泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線診断科、
 放射線治療科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科、臨床検査科

職員数 (2019年12月1日)

	職員数	医師	看護職員	専門職・ 技能業務職	事務職員
正規職員	1,180	120	707	270	83
非正規職員 (常勤換算)	223.43	79.11	66.15	12.94	65.23
合計	1403.43	199.11	773.15	282.94	148.23

※看護職員には看護師、助産師、保健師、准看護師、看護助手を含む。

また、専門職・技能業務職にはメディカルスタッフの他、調理師、事務技能職を含む。

認定・指定等 (2019年12月1日)

保健医療機関等の指定

- ・ 保険医療機関
- ・ 国保療養取扱医療機関
- ・ 指定養育医療機関
- ・ 労災保険指定医療機関
- ・ 母体保護法指定医療機関
- ・ 生活保護法指定医療機関
- ・ 自立支援医療（更生医療、育成医療、精神通院医療）
- ・ 難病指定医療機関
- ・ 小児慢性特定疾患医療機関
- ・ 身体障害者福祉法指定病院
- ・ 原子爆弾被爆者指定医療機関
- ・ 原子爆弾被爆者一般疾病医療機関
- ・ 日本医療機能評価機構認定病院
- ・ ISO9001
- ・ 卒後臨床研修評価機構 認定施設
- ・ ISO15189

医療機関等の指定

- ・ 基幹災害拠点病院
- ・ 高度救命救急センター
- ・ 群馬県ドクターヘリ基地病院
- ・ 群馬県高次脳機能障害支援拠点機関指定
- ・ エイズ診療拠点病院
- ・ 臓器提供施設
- ・ 群馬県地域周産期母子医療センター
- ・ 地域がん診療連携拠点病院
- ・ 地域医療支援病院
- ・ 第二種感染症指定医療機関
- ・ 臨床研修指定病院
- ・ 救急告示病院
- ・ 優良短期人間ドック施設

第2章 前橋構想区域の現状と課題

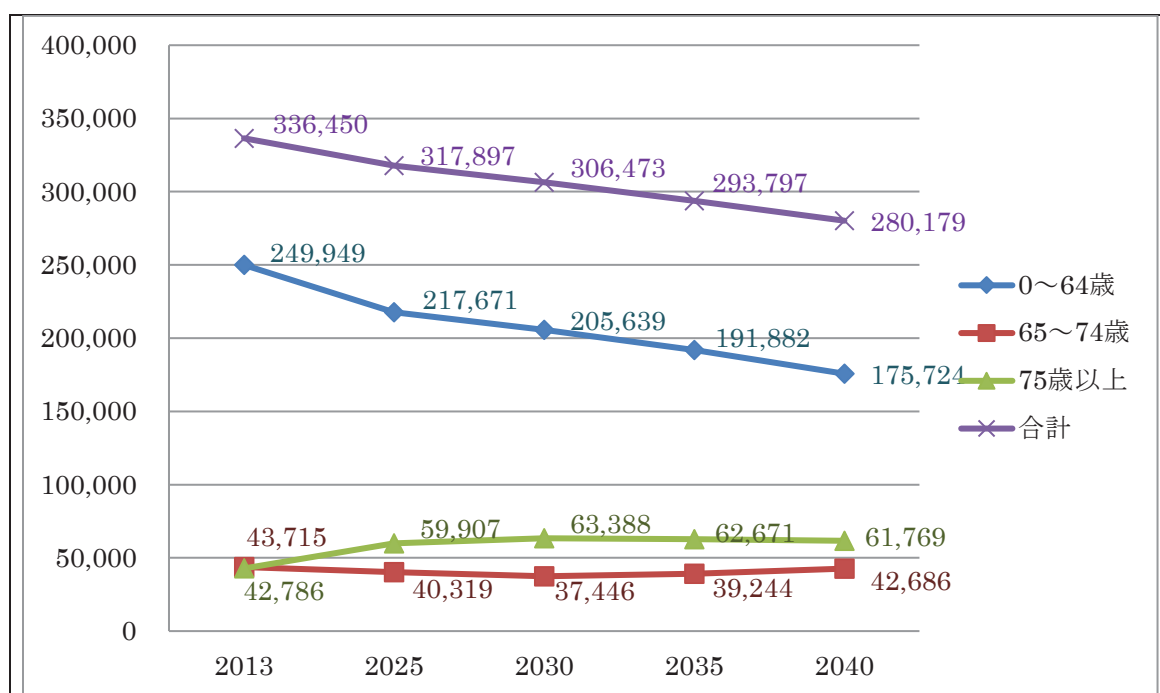
1. 前橋構想区域の現状

(1) 地域の人口及び高齢化の推移

群馬県の人口及び年齢区分別構成比の推移において、総人口数は2015年1,971,225人、2025年で1,857,908人と113,317人減少する推計にあります。また、65歳以上の構成比では2015年は27.6%、2025年は31.3%と3.7%増加する推移です。

さらに、地域構想区域別として、前橋赤十字病院の位置する前橋構想区域における人口の推計は、2013年において336,450人、2025年で317,897人と18,553人の減少が見込まれます。65歳以上の人口においては、2013年で25.7%、2025年は31.5%と5.8%と増加する推移です。

以上のように、2013年から2025年の流れにおいて、総人口は減少するにもかかわらず高齢者の人口は増加する傾向であるということが分かります。



前橋構想区域（前橋市）の総人口と高齢化比率の推移

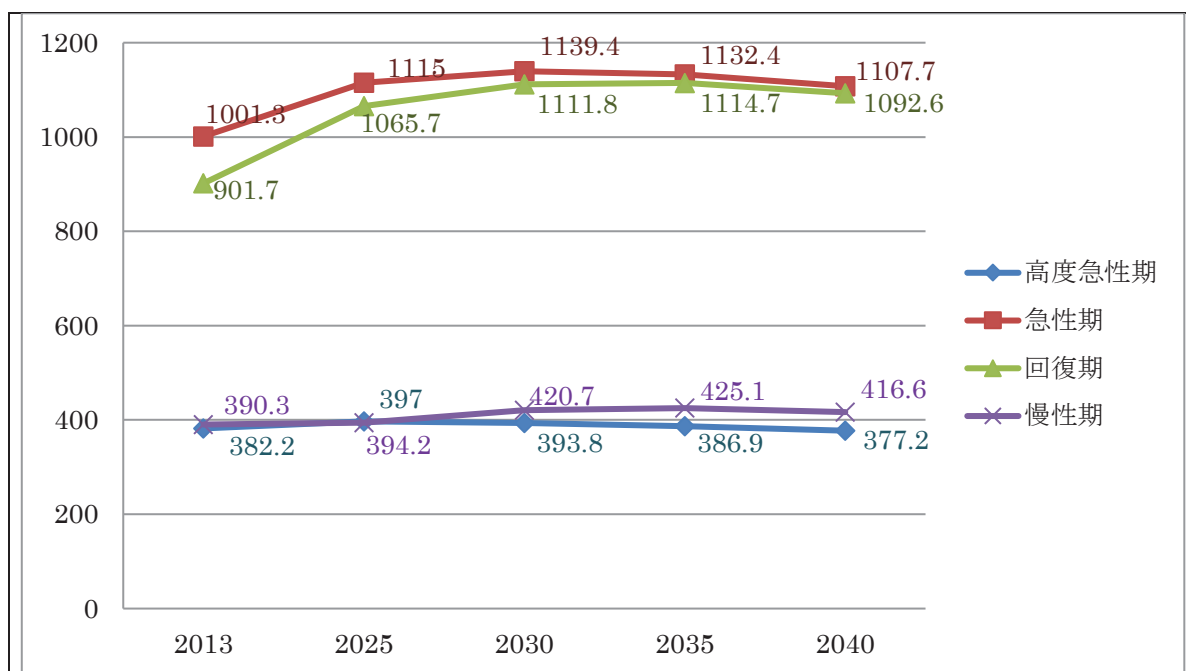
資料：群馬県地域医療構想（2016年11月版）

- ・群馬県「群馬県年齢別人口統計調査（2013年）」
- ・国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（2013年）」

(2) 地域の医療需要の推移

群馬県医務課の疾病構造推計によると、2015年から2025年の間に高齢者に多く見られる疾患である認知症や脳梗塞、肺炎、骨折等は医療需要の増加率が高く、概ね2035年頃まで増加傾向が続くことが見込まれます。

また、前橋構想区域における将来の医療需要の推計は、2025年において高度急性期や急性期、回復期、慢性期すべてにおいて増加傾向にあります。特に当院の機能である高度急性期に注目すると、2013年度では382.2床の需要があり、2025年には397.0床の需要が見込まれます。また、回復期においては901.7床から1065.7床への需要増加が見込まれており、18.1%と言う高い増加率となっています。



前橋構想区域（前橋市）における将来の医療需要の推計

資料：群馬県地域医療構想（2016年11月版）
・厚生労働省「必要病床数等推計ツール」

(3) 4機能ごとの医療提供体制の特徴

前橋構想区域における4機能の医療提供体制について、2016年7月時点での病床機能報告の集計結果を参考にすると最も多い機能は急性期の1,659床となります。次に高度急性期の1,341床、慢性期の469床、最も少ない機能は回復期の284床です。

6年後(2022年)を想定した病床機能報告では、最も大きい機能の急性期は1,698床に微増し、高度急性期は1,263床に減少します。さらに回復期が501床となり、2016年に比べると217床増加します。最も少ない機能は、慢性期の310床となり、回復期の数と逆転します。

(単位:床)

構想区域	小計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟等	合計
2016年7月時点	3,753	1,341	1,659	284	469	38	3,791
2022年 時点	3,772	1,263	1,698	501	310	19	3,791
見込まれる差	19	▲78	39	217	▲159	▲19	0

前橋構想区域(前橋市)における病床機能報告の集計結果

(4) 地域の医療需給の特徴

2025年の前橋区域における4機能ごとの医療需要と医療供給については、当院の機能を踏まえると高度急性期の需要には397.0床が見込まれ、一方の供給体制(必要病床数)は529床と推計されます。

また、2015年7月時点の病床機能報告と医療供給(必要病床数)を比較すると高度急性期の過剰と回復期の不足が目立つ状況となっています。

(単位:床)

区分	2025年の医療需要 A	2025年の医療供給 (必要病床数) B	2016年7月時点 病床機能報告 C	差 (C-B)
高度急性期	397.0	529	1,341	+812
急性期	1,115.0	1,429	1,659	+230
回復期	1,065.7	1,149	284	▲865
慢性期	394.2	459	469	+10
合計	2,971.9	3,566	3,753	+187

前橋構想区域(前橋市)における2025年の医療需要と医療供給

※A 2025年の医療需要・・・医療機関所在地に基づき推計したもの

※B 2025年の医療供給・・・医療需要を病床稼働率で除したもの(=必要病床数)

・高度急性期・・・ $397.0 \div 75\% = 529$

・急性期・・・ $1,115.0 \div 78\% = 1,429$

・回復期・・・ $1,065.7 \div 90\% \div 1,149$ ※

・慢性期・・・ $394.2 \div 92\% \div 459$ ※

※回復期と慢性期においては患者流入の調整あり

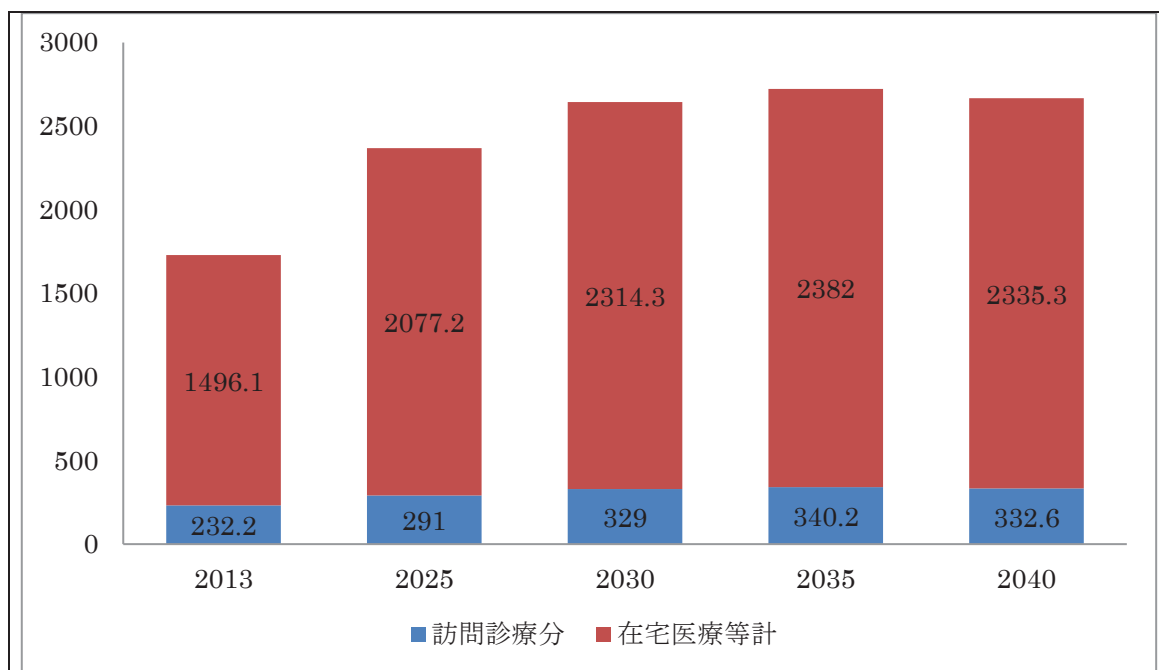
資料:群馬県地域医療構想(2016年11月版)

・厚生労働省「必要病床数等推計ツール」

・群馬県ホームページ(病床機能報告)

(5) 在宅医療等の医療需要

在宅医療等の医療需要は、2025年度には、2,077.2人/日になると見込まれ、2013年度の医療需要と比較すると38.8%増加します。



前橋構想区域（前橋市）における在宅医療等の医療需要の推計

※2013年の在宅医療等の医療需要・・・医療機関所在地ベース
※2025年以降の在宅医療等の医療需要・・・患者住所地ベース

資料：群馬県地域医療構想（2016年11月版）
・厚生労働省「必要病床数等推計ツール」
・群馬県医務課推計（訪問診療分）

2. 前橋構想区域の課題

(1) 病床の機能分化・連携の推進

2025年度の医療機能別の医療需要は、2013年度と比較して、すべての医療機能で増加します。

特に回復期の病床が大幅に不足することが予想されており、対応策として各医療機関の役割分担を明確に踏まえた上で、必要な医療機能への転換等を促進し、バランスのとれた病床整備を推進することが必要になります。

当院の機能である高度急性期や急性期においては一定の患者流入が見られる高崎や渋川、安中等の各構想区域との役割分担を踏まえた上で、連携強化に係る取り組みを行う必要があります。

今後、増加が見込まれる認知症等を含む精神疾患に身体疾患を合併する患者への医療提供のため、一般の医療機関と精神科医療機関の診療体制等の整備が求められます。

(2) 在宅医療・介護サービスの充実

在宅医療等の医療需要の増加に鑑み、在宅医療を担う医師、訪問看護師等の確保や介護事業者等との連携が課題となっています。

前橋構想区域の在宅による死亡率は、県平均を上回っており、在宅で亡くなる方の増加や在宅医療への期待の高まり等により、在宅での看取りに対応可能な医師や訪問看護師等の養成を積極的に行う必要があります。

第3章 前橋赤十字病院の現状と課題

1. 理念と基本方針

前橋赤十字病院の理念は下記のとおりです。

みんなにとってやさしい、頼りになる病院

上記の理念より下記の5つの基本方針が示されています。

1. 自分や家族がかかりたい病院となる
2. 社会に必要とされる病院となる
3. 職員が働きたい病院となる
4. 経営が安定している病院となる

2. 届出入院基本料

前橋赤十字病院は、高度急性期の医療機関として、救急患者の受け入れや重症患者への対応に取り組んでおります。届出入院基本料は以下のとおりとなります。

○届出入院基本料（2019年12月1日現在）

- ・一般病棟入院基本料 急性期一般入院料 1
- ・救命救急入院料 1
- ・精神病棟入院基本料
- ・回復期リハビリテーション病棟入院料 3
- ・特定集中治療室管理料 2
- ・小児入院医療管理料 3

3. 患者の推移について

- ・入院患者延数、病床稼働率は下降傾向にありましたが、新病院移転を行った2018年度には上昇する傾向がありました。
- ・地域別に見ると前橋市が63%を占め、隣接する市町を含めると約9割となります。一方で前橋市外からも約4割の入院患者を受け入れている状況もあります。
- ・60才以上の入院患者が7割を占める一方、10才未満の患者も6%と一定数を示しています。

(1) 入院

項 目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
①入院患者延数 (人)	187,590	185,601	183,217	181,347	181,877
②病床稼働率 (%)	90.2	89.0	88.1	87.2	89.4
③診療単価 (円)	68,534	70,663	70,425	70,122	73,249
④平均在院日数 (日)	12.5	11.4	11.3	10.9	11.6

※②病床稼働率・・・1日平均入院患者数／許可病床数

※④平均在院日数・・・患者在院延数／（新入院患者数＋退院患者数）÷2

(2) 外来

項 目	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
①外来患者延数 (人)	220,007	232,172	229,391	220,931	201,803
②診療単価 (円)	16,366	19,715	18,834	18,606	20,078

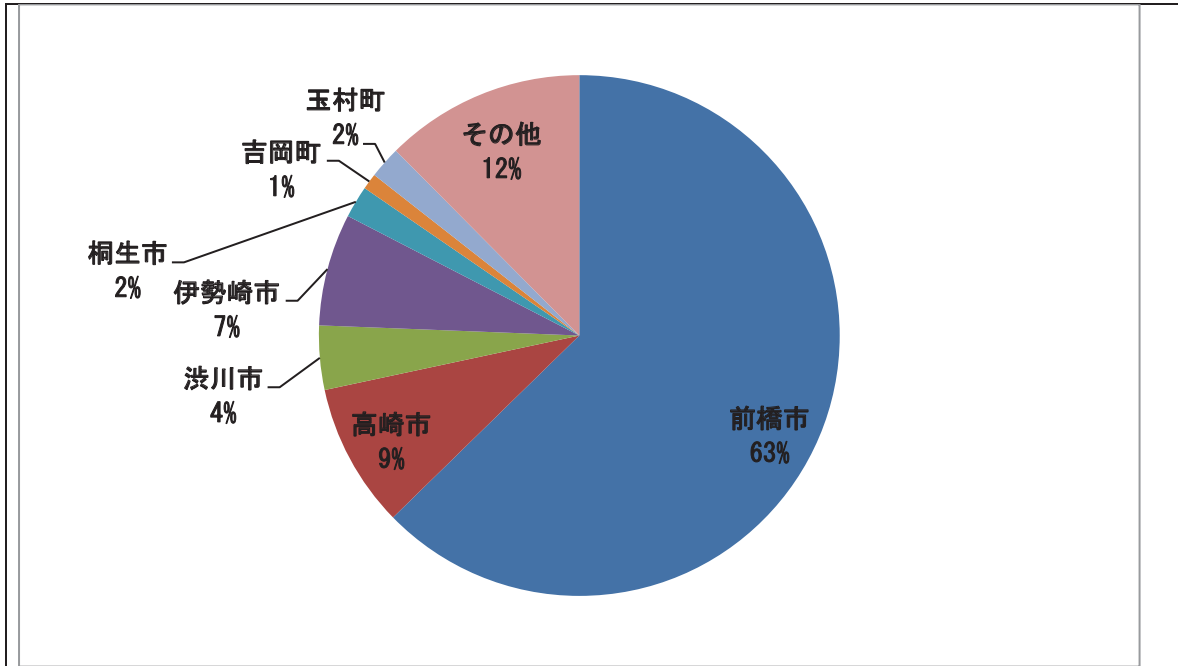
(3) 紹介・逆紹介（地域医療支援病院）

項 目	2017年度	2018年度
①紹介率 (%)	68.7	71.6
②逆紹介率 (%)	102.0	105.0

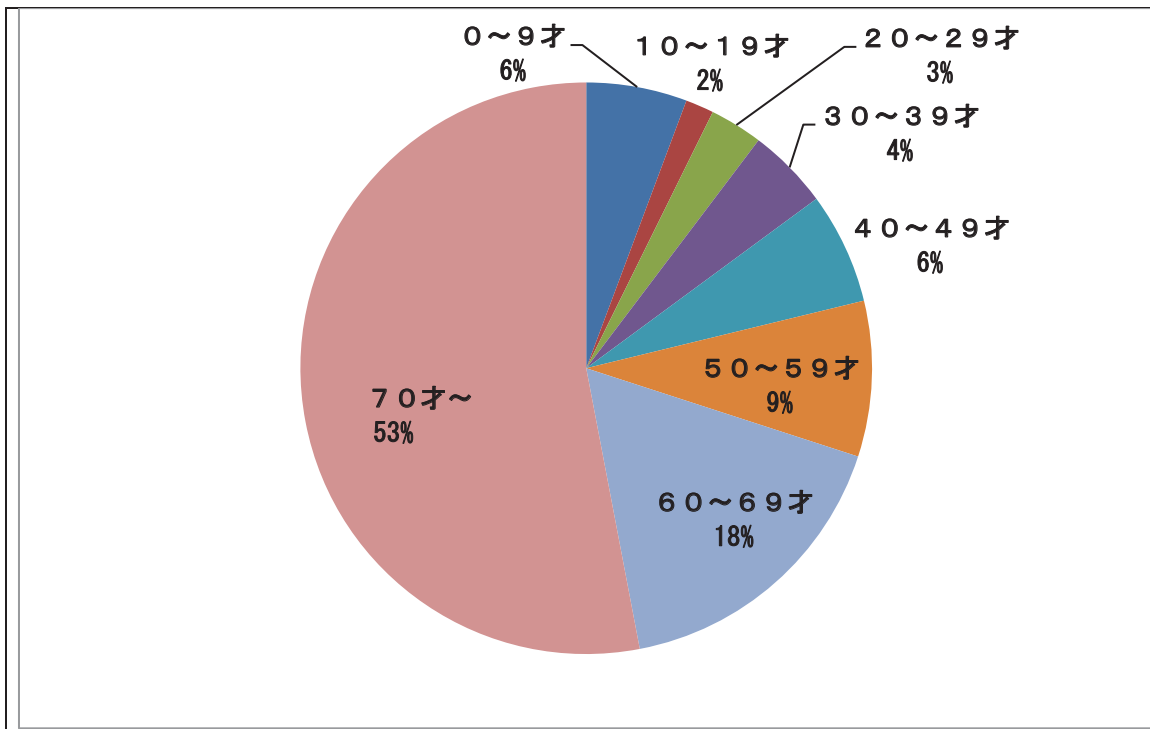
※①紹介率・・・紹介患者の数（救急患者を除く）／初診患者の総数

※②逆紹介率・・・診療情報提供書枚数／初診患者の総数

(4) 入院患者の地域性・年齢構成について



入院地域別患者数の割合 (2018年度)



入院患者年齢別の割合 (2018年度)

4. 職員の基本情報（2019年12月1日現在）

○職員数 1403.43人（常勤換算）
※内訳は4ページ「職員数」のとおり

○専門看護師

- ・慢性期看護専門看護師 1名
- ・がん看護専門看護師 2名
- ・急性重症患者看護専門看護師 1名

○認定看護師

- ・集中ケア認定看護師 2名
- ・救急看護認定看護師 4名
- ・感染管理認定看護師 1名
- ・手術看護認定看護師 2名
- ・皮膚・排泄ケア認定看護師 1名
- ・緩和ケア認定看護師 2名
- ・摂食・嚥下障害認定看護師 1名
- ・脳卒中リハビリテーション
看護認定看護師 1名
- ・認知症看護認定看護師 1名
- ・がん化学療法認定看護師 1名

○学会認定看護師

- ・精神科認定看護師 1名

○その他の有資格者

- ・認定看護管理者 4名

5. チーム医療の充実について

医師、看護師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、管理栄養士、臨床検査技師、放射線技師、事務職員などの多職種で構成された医療従事者がチームとなり、対等の立場でお互いの意見を尊重し、個々の患者さんの状態に合わせた、質の高い医療を提供しています。

当院のチーム医療は、「かんわ支援チーム」「院内感染対策チーム」「褥瘡対策チーム」「栄養サポートチーム」「呼吸ケアチーム」「排尿ケアチーム」「認知症ケア・リエゾンチーム」などがあり、全診療科を対象に活動しています。また、それぞれのチームは、お互いに連携をし、情報の共有を図ることで、患者様の多様なニーズに答えられるようサポートしております。

6. 看護職員教育の充実について

看護職員の現任教育には力を入れており、平成19年から「キャリア開発ラダー」を導入し、レベルに応じた到達目標が設定され、個々の能力や多様なライフスタイルから各レベルが学べる教育を行っています。

(1) 教育理念

看護部の理念に基づき、『前橋赤十字病院キャリア開発ラダー』を用いて現任教育を行い、専門職業人としての自己実現を支援します。

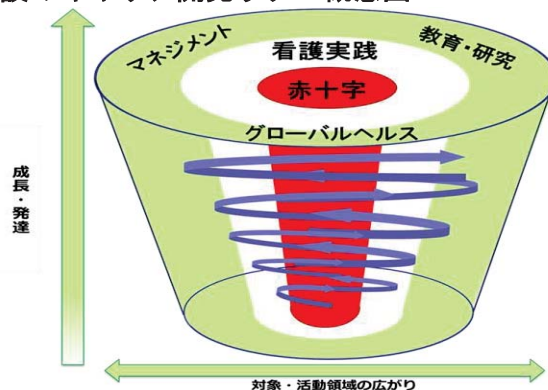
(2) 教育目標（期待される看護師像）※2020年4月改定案

- ①急性期医療に対応した専門的な技術・知識が共有できる
- ②赤十字人として、グローバルな視点を持ち、災害、救急医療、地域医療のニーズに対応できる
- ③組織の一員として良好な人間関係を築いていく調整能力を開発できる
- ④自己の学習ニーズを把握し、キャリア開発ができる
- ⑤安全な医療を心がけ、質の高い看護サービスを提供できる

赤十字施設のキャリア開発ラダー全体構造図

	実践者	管理者	国際	教員
到達目標を達成するための教育研修	V 病院単位で活躍できる者	管理Ⅳ	国際Ⅳ	教員Ⅳ
		管理Ⅲ	国際Ⅲ	教員Ⅲ
	Ⅳ 看護部単位で活躍できる者	管理Ⅱ	国際Ⅱ	教員Ⅱ
		管理Ⅰ	国際Ⅰ	教員Ⅰ
Ⅲ	病棟単位で活動できる者 リーダー			
Ⅱ	自立して看護活動ができる者（病棟内）			
Ⅰ	指導や助言を得ながら看護活動ができる者			

赤十字施設のキャリア開発ラダー概念図



7. 医療安全への取り組み

現在の医療安全管理体制は、インシデント報告や実際の改善に対応する医療安全委員会、アクシデント対応を行う事例検討委員会、紛争対応の大きく3つからなり、院内での医療安全に対する改善活動はもとより、外部への活動にも積極的に参加し、医療の質向上への取り組みに注力しています。

(1) 委員会およびカンファレンス

- ①医療安全委員会
- ②事例検討委員会
- ③医療安全カンファレンス

(2) インシデント・アクシデント事例の収集、分析、管理

医療安全推進室員により毎週開催している医療安全カンファレンスにおいて、報告された事例をもとに情報の収集、原因分析、対策立案し、再発防止への取り組みを行っています。

また、実施した対策の評価や職員からの個別の改善提案なども検討し、周知が必要なものについては、「質・安全 虎の巻」として発行しています。

2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
2,910	3,601	3,971	4,142	3,902

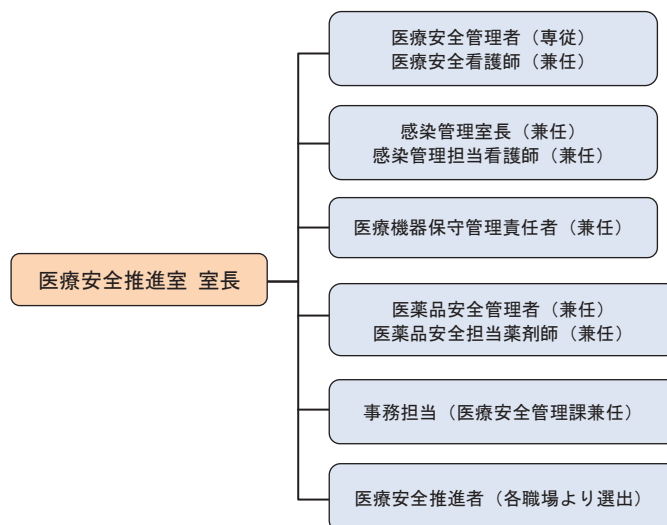
医療安全統計（インシデントレポート提出の推移）

(3) 医療安全ラウンド

医療安全推進者と連携して、毎月1回院内をラウンドし、5S活動の推進、院内危険箇所の改善提案を実施しています。

(4) 医療安全推進者会議の運営

毎月、医療安全推進者を招集して現場における問題点の検討をしています。



医療安全推進室 組織図

8. 感染対策への取組み

院内には、感染症が起きないように、また想定以外に感染症が広がった時にすぐわかるよう、そして感染症が発生した時に組織的問題があればそれに迅速に対処するよう、活動しているチームがあります。

(1) ICT (インフェクション・コントロール・チーム)

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職員からのメンバーで構成されており、週1回の環境ラウンドをはじめ、抗菌薬ラウンド、講演会、ICTキャンペーン、ワーキンググループ活動等を開催しています。

(2) 感染対策委員会

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師など各部門の責任者で構成されており、月1回会議を開催しています。

会議では、院内での感染動向や耐性菌情報などの報告、感染管理上の問題解決、清掃を含む環境整備、感染管理上の院内ルールの作成と改正、感染対策マニュアルの改編などを行っています。

また、ある感染症が急に想定以上に発生した場合は、緊急会議を開催します。新型インフルエンザの発生時や、季節性インフルエンザの病棟内発生時など病棟閉鎖を含めた対策が必要なときなどに開催されています。

(3) 細菌検査室

以下のような役割で活動しています。

- ①感染症の治療に向けた検査
- ②特別な感染症の監視
- ③感染症に関する情報の収集

年(1月～12月)	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
依頼検数	21,859	22,746	22,127	18,989	17,421

細菌の培養数(件)

年(1月～12月)	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
MRSA検出	26.8	26.7	28.8	25.6	29.2

黄色ブドウ球菌中のMRSAの割合(%)

その他、第二種感染症指定医療機関、エイズ診療拠点病院の指定を受けています。

また、感染症内科を標榜しており、医師1名が、専門的感染症についての診療をおこなっています。問題となる臓器や微生物に限らず、さまざまな感染症を横断的に診療しています。

例えば、重症難治感染症、多剤耐性菌による院内感染症、特殊な市中感染症（レジオネラ肺炎など）、免疫不全者の日和見感染症、性行為感染症、手術関連感染症、新興感染症（デング熱など）について各診療科と協力しながら診療を行っています。

9. ISO9001 認証の取得について

当院は、2013年3月18日付でISO9001を認証取得しました。当院では、ISO9001 認証取得及び維持への取り組みを通じて、絶えず変化する患者様及び関係者のニーズに応えるために、PDCAサイクルを回し、プロセスを継続的に改善することによって、医療の質を向上し、より高い患者様及び職員の満足を目指していきたいと考えています。

10. ISO15189（臨床検査室）認定について

ISO15189とは、臨床検査（一般検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、微生物学的検査、病理学的検査など）を実施する臨床検査室の技術能力を決定する手段のひとつです。

当院は、2018年1月18日付でISO15189を認定取得しました。

11. 地域がん診療連携拠点病院の指定について

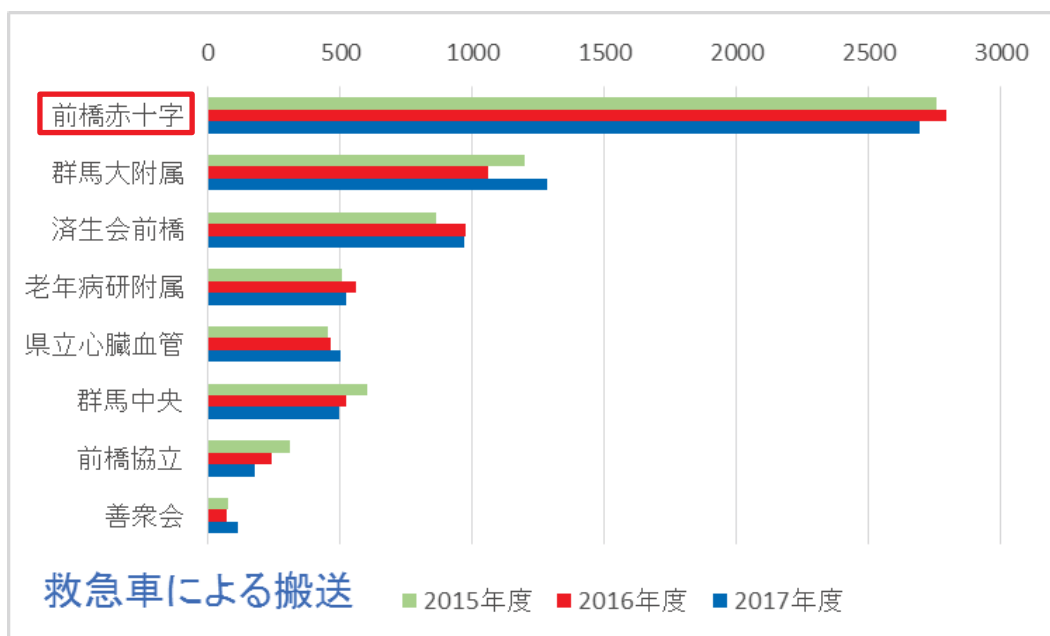
当院は、2008年2月8日付で厚生労働大臣から「地域がん診療拠点病院」に指定されました。地域の医療機関との連携を図りながら質の高い医療を提供するとともに、院内外への教育・研修など、体制を整えています。

また、がん相談支援センターを設置し、がん患者様の治療や退院後の生活、仕事に対する心配などの相談を受け付ける体制を整えています。

あわせて、がん患者様の療養に役立つ情報として、群馬県で取り組んでいる県内病院や診療所の在宅ケアの実施状況についての調査結果である『群馬県がん在宅緩和ケア地域連携施設情報』をホームページにて提供しています。

1.2. 救急医療体制の充実について

前橋赤十字病院は、2003年3月に『高度救命救急センター』に認可されました。群馬県内全域を対象として、先進的で高度な救急医療を行い、地域医療社会においても救急の中心的な役割を果たせるよう積極的に取り組んでいます。



前橋構想区域の『救急車による搬送数（2015年度～2017年度）』

※出典：平成27～29年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）
 ※「(5) 救急車による搬送の有無」の実績を集計。

(1) 高度救命救急センター

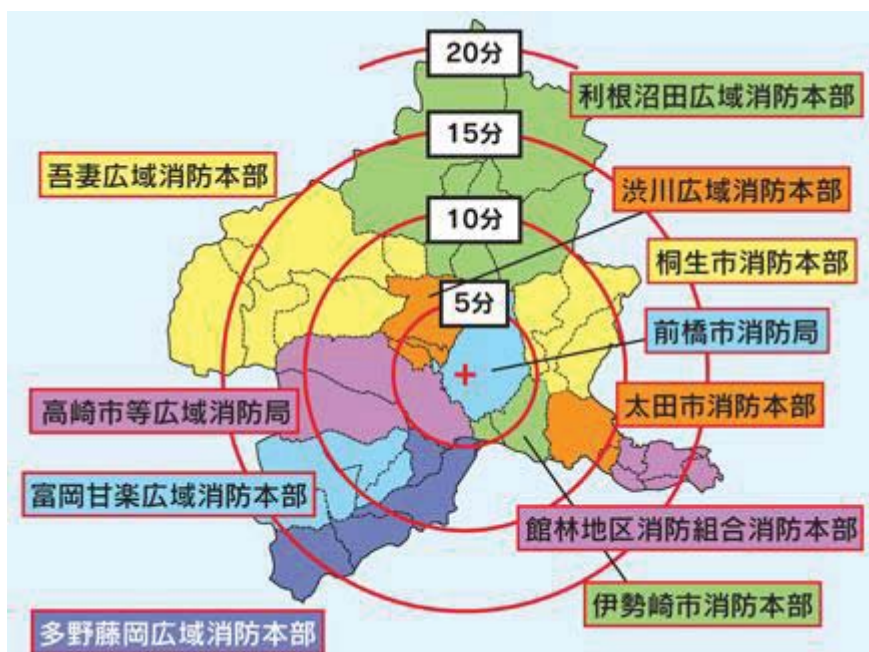
従来の救命救急センターの役割に加えて、「広範囲熱傷」「急性中毒」「指肢切断等の特殊疾患患者」に対し、高度な救急医療を行う専任医師と看護師等の診療体制及び設備を24時間体制で備えている救命救急センターです。

高度救命救急センターは厚生労働大臣により全国38施設が定められていますが、その大部分は救命救急医療を診療の中心的な柱の1つとしている「大学病院」や「公立病院」です。当院は「大学病院」や「公立病院」以外の高度救命救急センターとして全国で初めての認可となり、全国各赤十字病院の中でも当院を含めて6施設のみとなります。

○病床数 48床（うちCCU6床）

(2) ドクターヘリ

群馬県ドクターヘリは、2009年2月18日より前橋赤十字病院が基地病院となり全国15道府県、17機目のドクターヘリとして運航を開始しました。時速約200kmで航行し、県内全域を概ね20分以内でカバーしています。



群馬県全域とドクターヘリ航行平均所要時間

(3) ドクターカー

ドクターカーの運用は2016年2月から前橋市消防局との協働により、当初は、ドクターヘリ補完事業として開始されました。2016年3月からはドクターヘリ運航中の時間内にも運用されるようになり、新病院移転の2018年6月からはステーション方式（救急隊員と救急車の院内待機）へと変更して本格運用を始めました。

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
救急外来患者数	18,837名	19,462名	18,051名	17,697名	16,686名
救急車搬送台数	6,033台	6,065台	5,869台	5,921台	5,791台
救急車応需率	98.0%	98.1%	99.0%	98.8%	98.4%
ドクターヘリ搬送数	747名	719名	645名	791名	818名
防災ヘリ搬送数	32名	13名	14名	16名	4名
ドクターカー搬送数	57名	90名	251名	321名	375名
救急入院患者数	5,353名	5,809名	5,877名	6,054名	5,582名
救急科入院患者数	618名	626名	635名	678名	539名
救急科ICU入院患者数	139名	133名	112名	137名	123名
ドクターヘリ出動数	881件	869件	776件	956件	947件
防災ヘリドクヘリの運用出動数	27件	20件	25件	19件	1件
ドクターカー出動数	105件	101件	359件	412件	456件

※ドクターヘリ搬送数には、他県ドクターヘリで当院に搬送されたものも含む

※ドクターカー搬送数には、前橋以外から当院に搬送されたものも含む

高度救命救急センターの統計（推移）

(4) 地域病院救急車

前橋市消防局管内における消防救急車を利用した転院搬送について、救急車の適正利用を推進するための『地域病院救急車』を導入し、2018年6月1日より運用を開始しました。

(5) 第3次救急医療機関として

群馬県が作成する医療計画の基準に基づき、第3次救急医療機関に指定されています。

※基準 救命救急センターを設置する病院

No	市町村	医療機関名	備考
1	前橋市	前橋赤十字病院	高度救命救急センター
2	高崎市	高崎総合医療センター	救命救急センター
3	太田市	太田記念病院	救命救急センター
4	前橋市	群馬大学医学部附属病院	救命救急センター

参考 群馬県内の第3次救急医療機関

13. 災害医療体制の充実について

群馬県で災害が起きた場合、基幹災害拠点病院として、当院が中心となって災害救護活動を行います。主に傷病者発生時の受け入れ、災害医療救護への医師等の派遣などの役割と調整を担います。また、日頃から大規模災害時に備えた救護訓練の実施、食糧・救護資材の備蓄なども行っております。

併せて、県外被災地への救護班派遣を行うとともに、大規模災害発生時にはCH47など大型ヘリコプターが離着陸可能なヘリポートを活用し、医療搬送の拠点として運用します。

(1) 赤十字救護班 8班・54名

- ・初動救護班 2班・12名（医師、看護師長、看護師2名、事務等2名）
- ・救護班 6班・42名（医師、看護師長、看護師2名、薬剤師1名、事務等2名）

(2) 日本DMAT登録者 68名

- ・医師 18名
- ・看護師 27名
- ・調整員（事務等） 23名

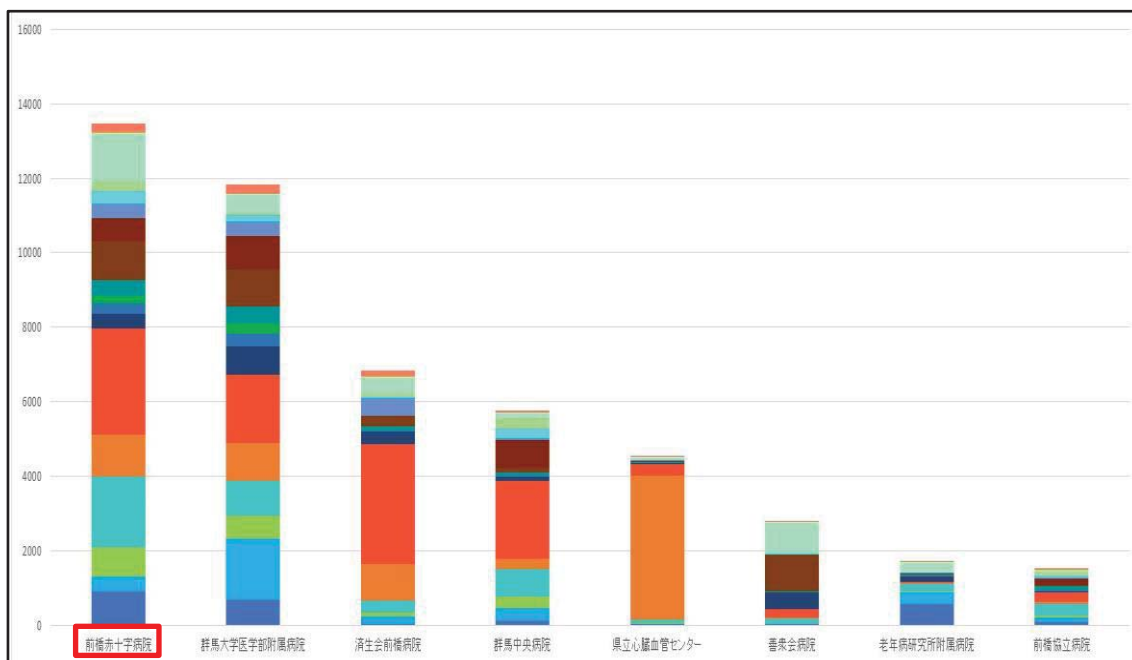
(3) 統括DMAT登録者（医師） 7名



1 4. 前橋赤十字病院の診療領域（疾患）の特徴

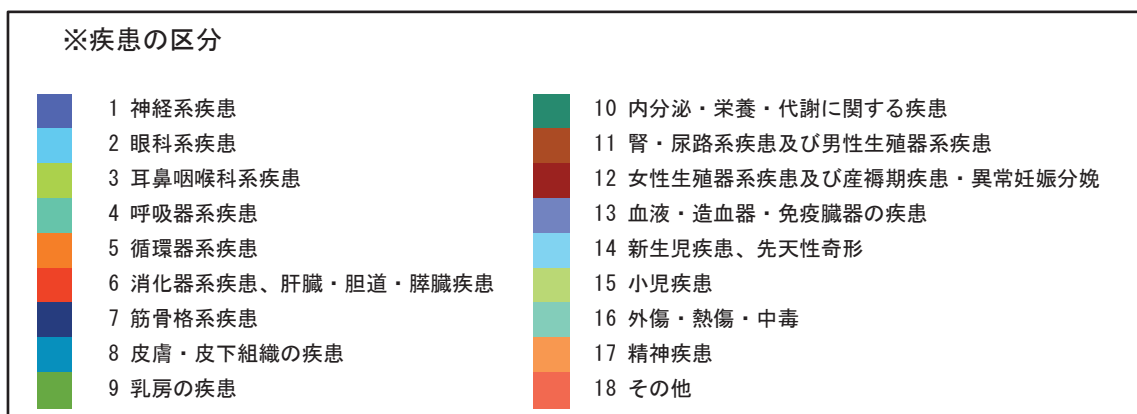
以下のグラフによると、前橋構想地域（前橋市）における入院患者の受入は前橋赤十字病院が最も多いことが分かります。

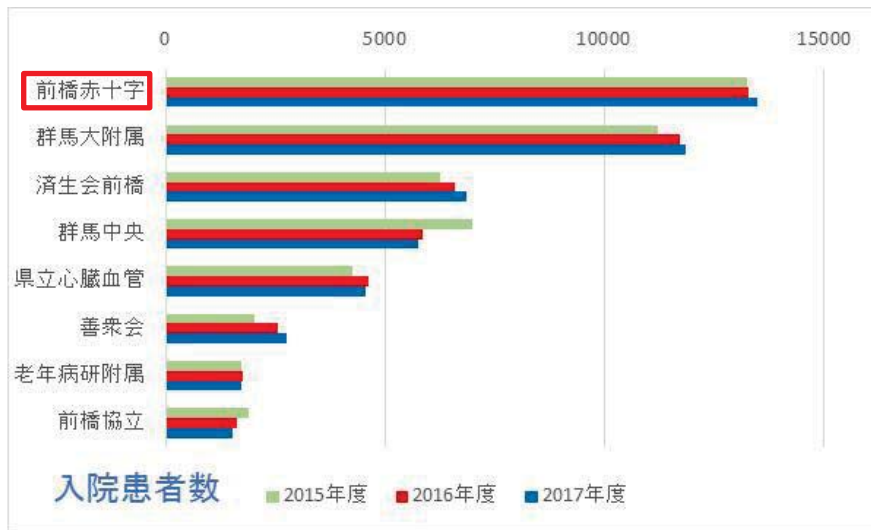
前述の救急搬送数（入院患者）はもとより、入院患者総数や各疾患の受入状況においても高度急性期を主軸とする医療機関としてトップクラスの実績を誇ります。



前橋構想区域の『入院患者総数（2017年度）』

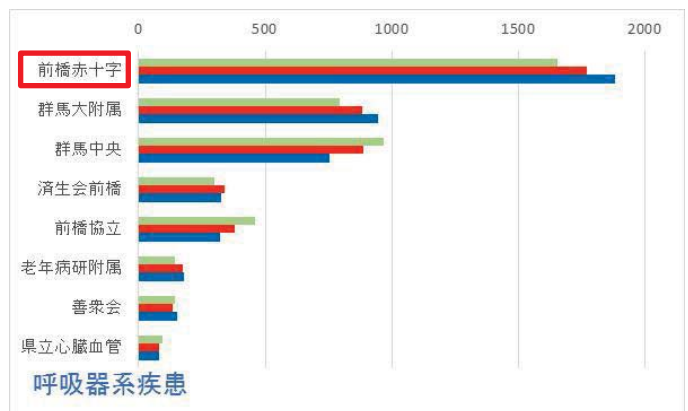
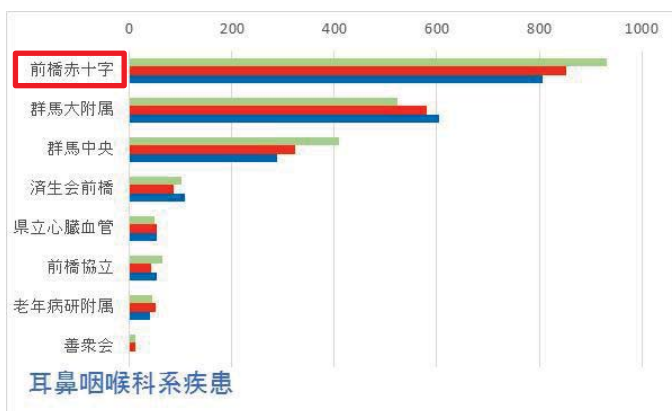
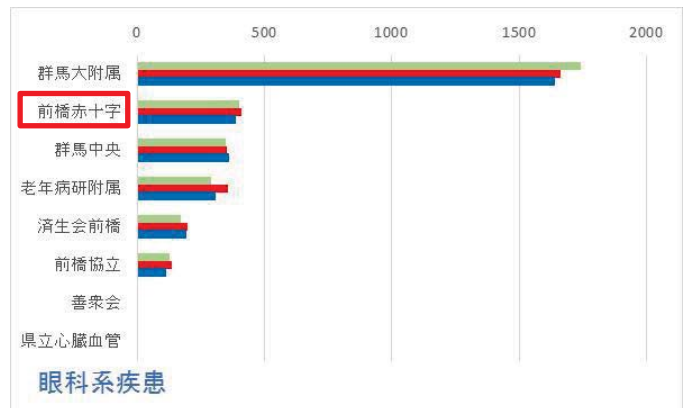
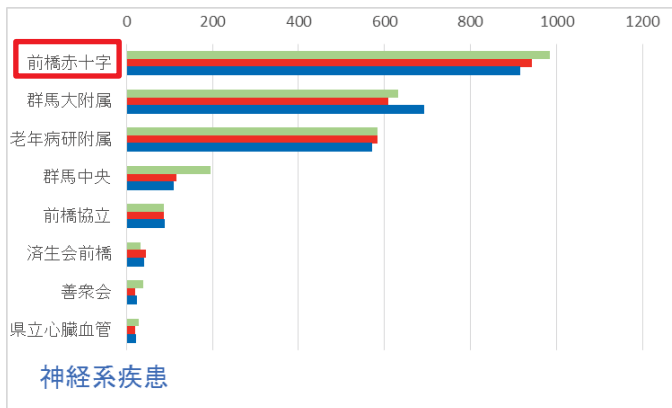
※出典：平成27～29年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）

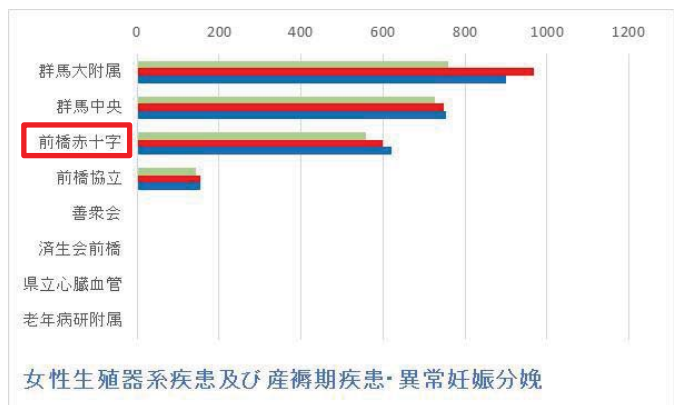
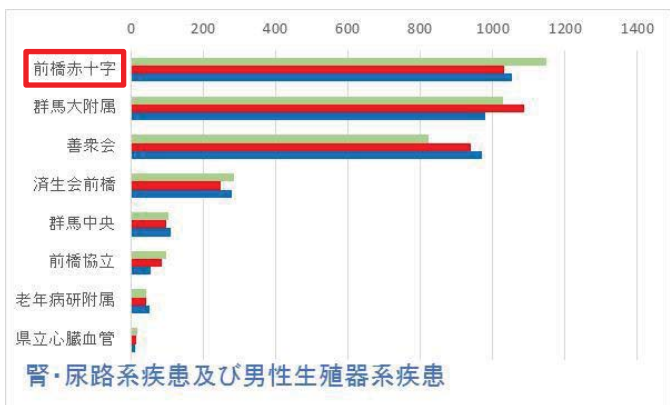
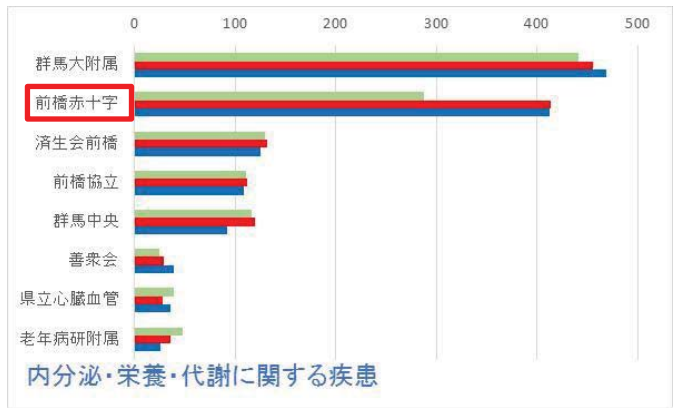
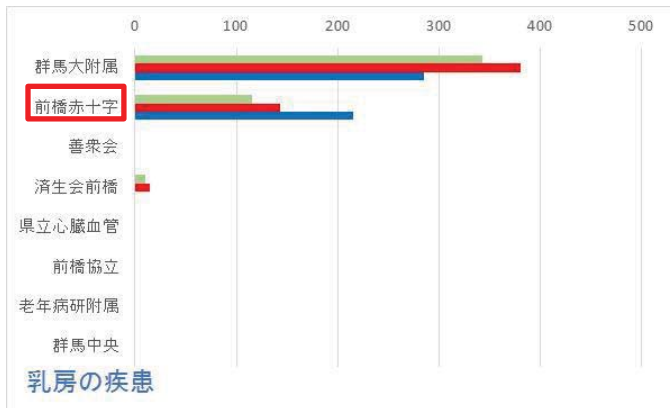
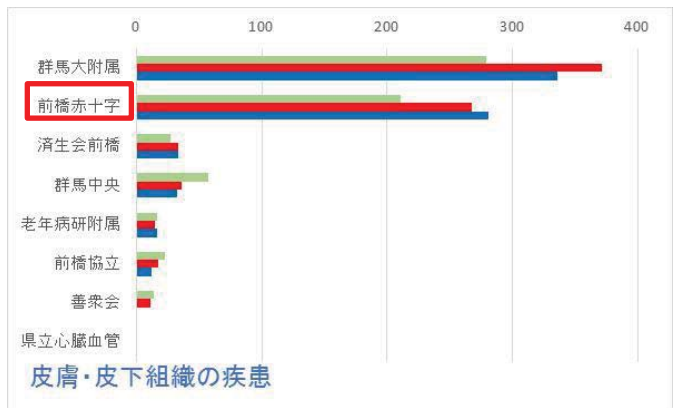
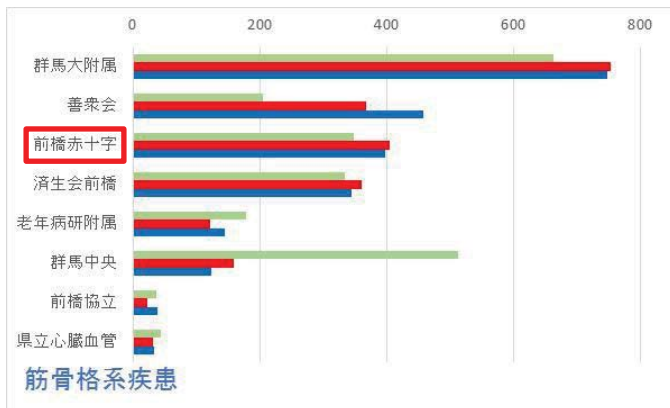
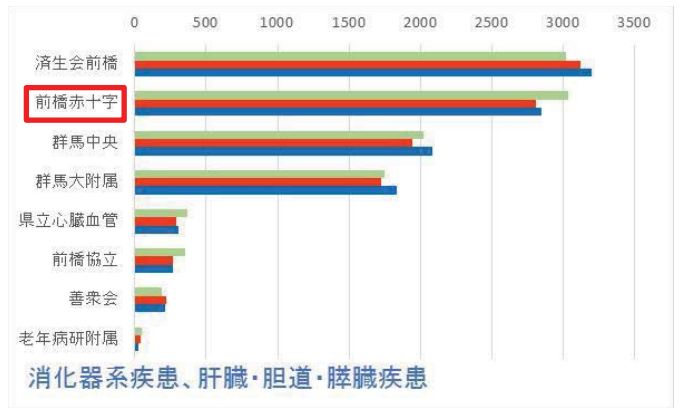
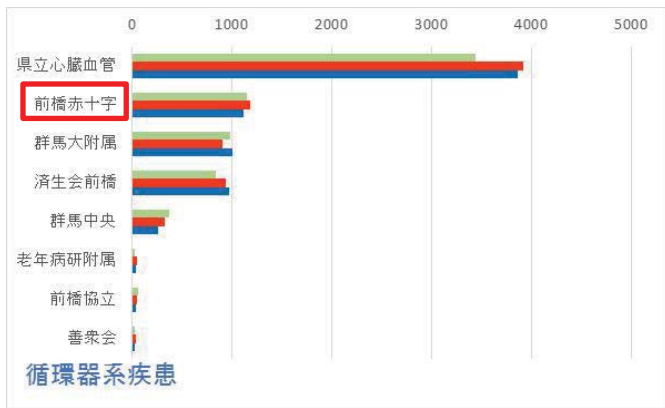


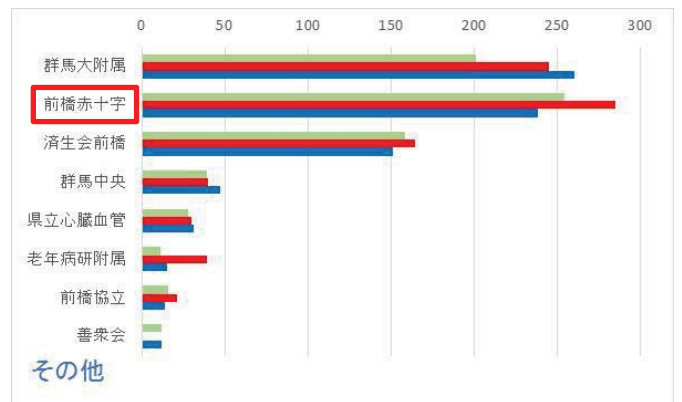
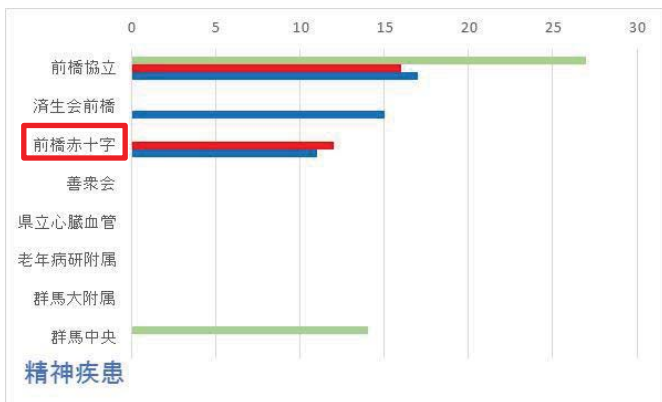
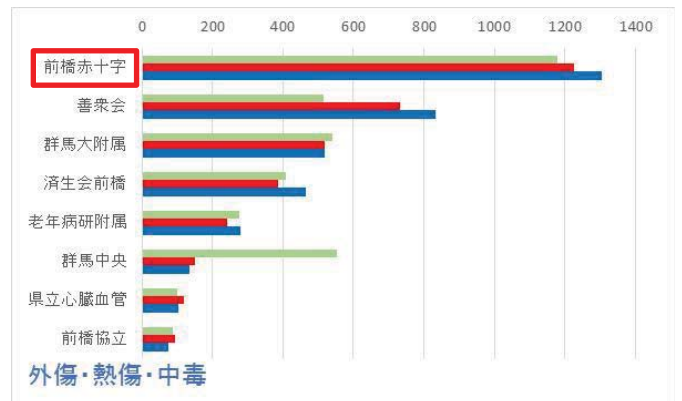
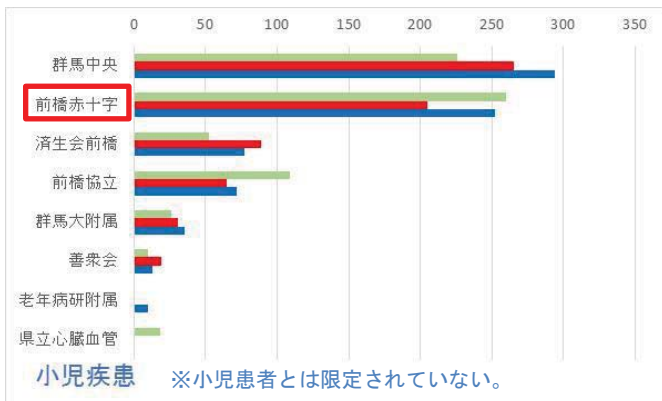
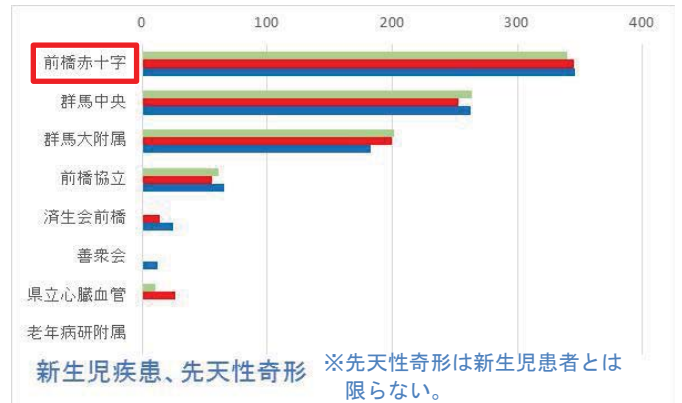
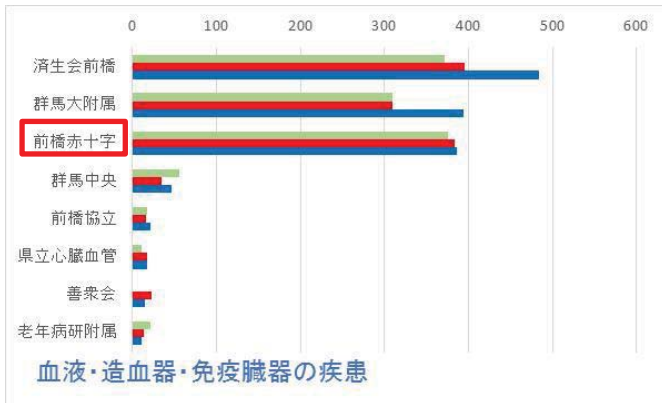


前橋構想区域の『入院患者総数（2015年度～2017年度）』

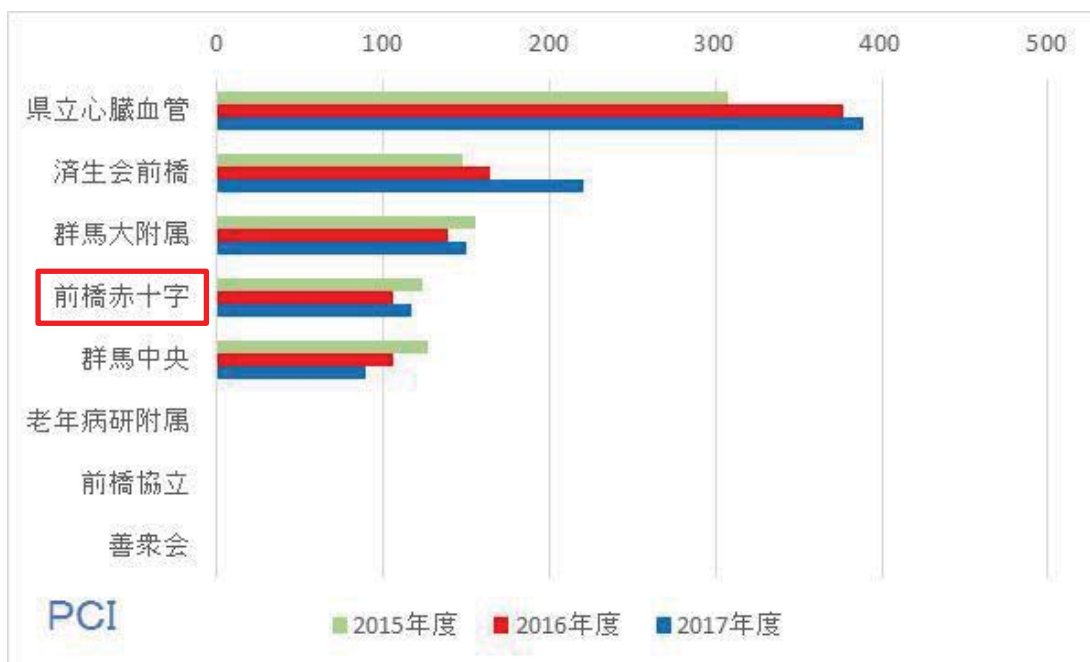
※出典：平成27～29年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）
 ※各年度の「（2）MDC別医療機関別件数（割合）」のMDC2ごとと症例数を合計。







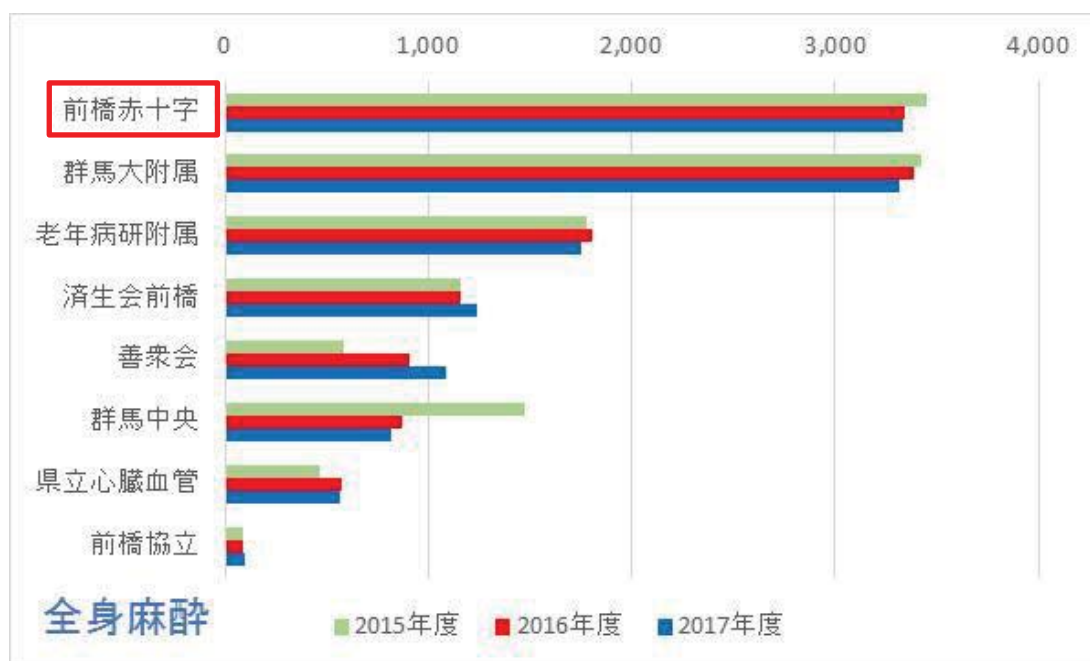
※各項目10症例に満たないDPCは、ゼロカウント集計としているため、小数の症例実績はグラフに表示されません。



前橋構想区域の『PCI患者数（2015年度～2017年度）』

※出典：平成27～29年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）

※050050:狭心症、慢性虚血性心疾患において、02手術の件数を集計。



前橋構想区域の『全身麻酔患者数（2015年度～2017年度）』

※出典：平成27～29年度DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」（厚生労働省）

15. 前橋赤十字病院の病棟別の特徴

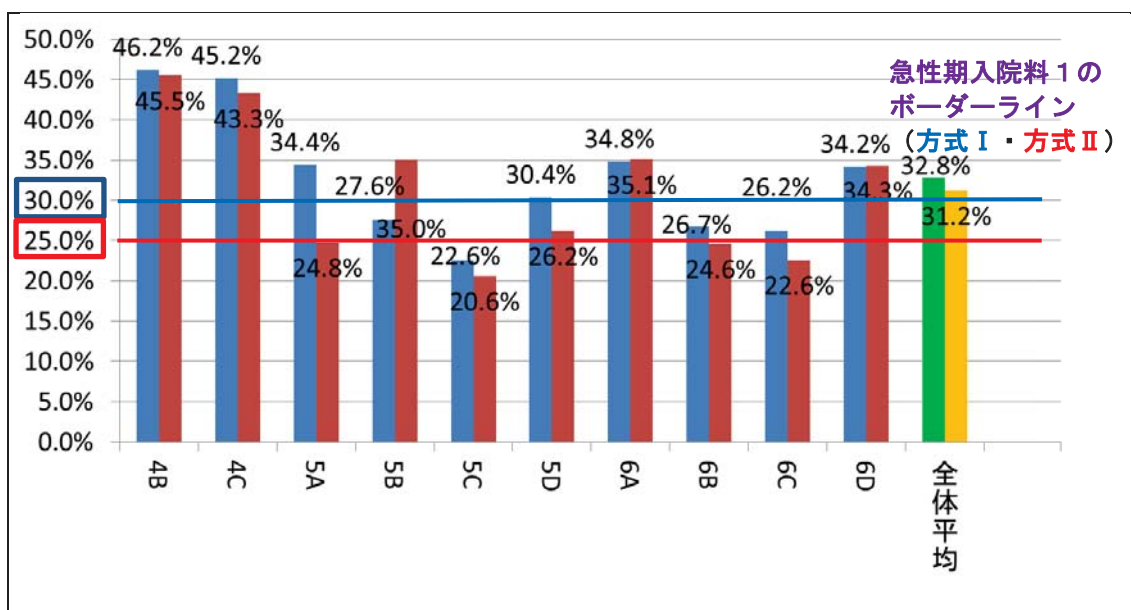
高度救命救急センター病棟、I C U病棟を有し、各診療科と連携した体制作りを行っています。

(1) 病棟構成

病棟	病床数	主たる診療科目
3 A病棟	24	全科対象（高度救命救急センター病棟）
3 B病棟	24	全科対象（高度救命救急センター病棟（CCU6床を含む））
3 C病棟	12	全科対象（全てI C U）
3 D病棟	12	全科対象（全てI C U）
4 A病棟	33	小児全般（NICU9床を含む）
4 B病棟	28	産婦人科
4 C病棟	40	神経内科、脳神経外科、救急科
4 D病棟	40	リハビリテーション科
5 A病棟	40	泌尿器科、リウマチ・腎臓内科、皮膚科
5 B病棟	40	呼吸器内科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科、感染症内科
5 C病棟	40	心臓血管内科、心臓血管外科、糖尿病・内分泌内科、眼科
5 D病棟	40	整形外科、形成・美容外科
6 A病棟	40	消化器内科、外科
6 B病棟	40	血液内科、乳腺・内分泌内科、放射線治療科
6 C病棟	40	消化器内科、外科、総合内科、歯科口腔外科
6 D病棟	40	消化器内科、外科
7 A病棟	22	精神科
合計		555床

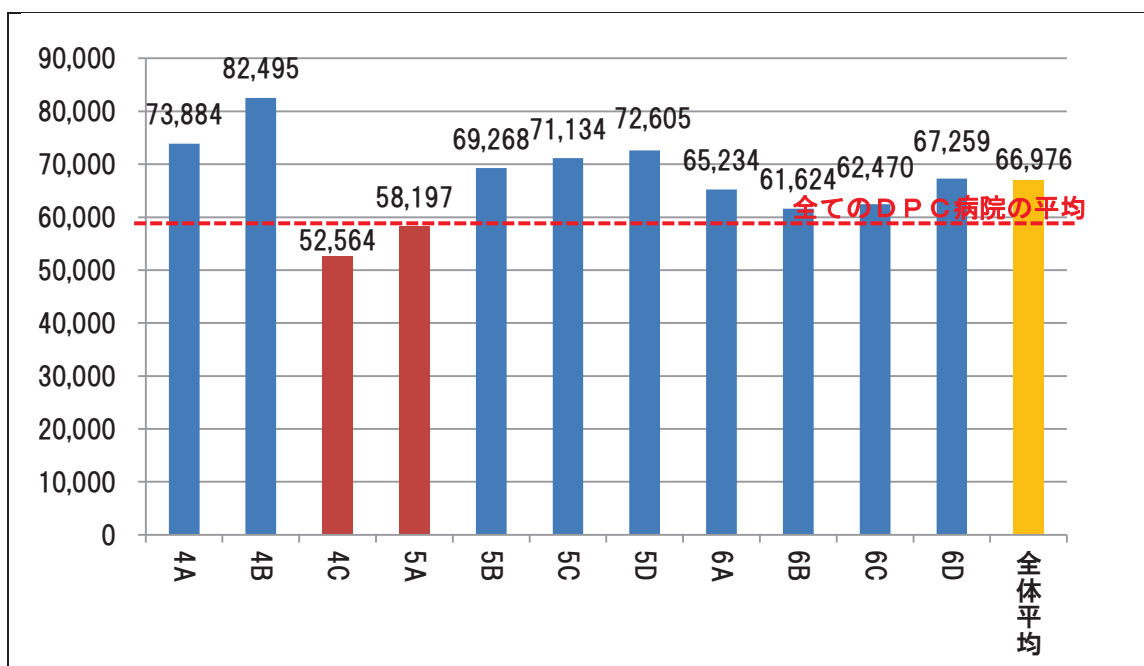
(2) 一般病床 重症度、医療・看護必要度（急性期一般入院料1）

※ 15歳未満の小児患者および産科患者は除外



病棟別 重症度、医療・看護必要度
(2019年12月)

(3) 入院診療単価（急性期一般入院料1）



病棟別 入院診療単価
(2019年12月)

16. 前橋赤十字病院の担う政策医療

(1) 5疾病・5事業の医療体制

- ・「救急部門」や「各診療科」の体制の充実のもと対応しています。
- ・「地域がん診療連携拠点病院」「高次脳機能障害支援拠点病院」等の指定のもと診療を行っています。
- ・がん、脳卒中、糖尿病など、地域連携クリニカルパスを整備し地域医療機関との連携を強化しています。
- ・その他の疾病についても、地域医療支援病院として、地域との医療連携を推進しています。

(2) 在宅医療への支援体制と連携体制

- ・医療福祉相談室（社会福祉士）、退院支援室（看護師）が地域の診療所、介護施設、ケアマネジャー等と連携し、在宅復帰を支援しています。
- ・付帯事業として訪問看護ステーションを併設しています。訪問看護、訪問リハビリテーション、地域の主治医と連携した訪問診療を行っています。

年 度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
訪問利用者数（人）	1,109	1,055	1,078	1,087	1,060
総訪問件数（件）	5,559	4,803	4,930	5,409	5,486

訪問看護統計（看護患者数）

17. 前橋赤十字病院の立ち位置（第3者評価として）

2013年7月22日（月）に開催された『前橋・伊勢崎・玉村地域市町村懇談会』における「前橋赤十字病院の移転促進及び跡地の活用について」において、群馬県知事・前橋市長からの評価をいただいています（群馬県ホームページから）。

○群馬県知事

『前橋赤十字病院は群馬県としても最大の災害拠点病院であり救急医療機関の基幹であろうと思っている。』

○前橋市長

『前橋赤十字病院については、市民病院としても、県全体の医療の核、災害医療、地域医療と言う意味合いでも本当に無二の存在と考えている。』

18. 前橋赤十字病院の今後の課題

(1) 病床機能報告における立ち位置 (2019年10月一部改定)

前橋赤十字病院は2019年10月時点(令和元年度)の病床機能報告において、以下のとおり提出をしています。

○一般病床

	現在(2019年度) (令和元年度病床機能報告)
高度急性期	487
急性期	
回復期	40
慢性期	
(合計)	527

○その他病床

	現在(2019年度) ※病床機能報告以外の病床
精神科病床	22
感染症病床	6
(合計)	28

◎総計(許可病床)

(合計)	555
------	-----

(2) 地域医療の現状と照らし合わせた課題

前橋構想地域の現状と課題を整理すると、以下のようになります。

- ・高齢者人口は増加します。
- ・医療需要はすべての医療機能で増加します。
- ・回復期の病床は大幅に不足します。
- ・精神疾患と身体疾患を合併する患者の増加が見込まれます。
- ・2016年7月時点の病床機能報告と2025年の医療需要を比較すると高度急性期は過剰であり、当院としても検討する余地があります。

以上のような状況を踏まえ、当院では前橋構想地域における当院のあり方を検討してきました。また、病床利用率の推移なども踏まえ、適切な病床数も検討する必要があります。

第4章 今後の方針

1. 地域において今後担うべき役割

群馬県立の総合病院、前橋市民病院に近い立場の病院として、今後、以下の役割を担うと考えます。

(1) 第3次救急病院としての役割

- ・高度急性期病院として、前橋市内並びに群馬県内の医療機関で対応できない外傷、疾病に対応しうる機能を維持・強化します。
- ・県内消防との連携を強化し、ドクターヘリの運用を維持・強化します。併せて、前橋市内におけるドクターカーの運用を更に強化し、推進します。

(2) 地域医療支援病院としての役割

- ・紹介、逆紹介を推進し、地域の医療機関との連携を強化します。

(3) 在宅医療や介護との連携における役割

- ・社会福祉士、退院支援看護師等の介入によるケアマネジャーとの連携を強化し、更なる退院支援や在宅復帰支援の充実を図ります。
- ・緩和ケアチーム、皮膚・排泄ケア認定看護師、NSTなどチーム医療や認定看護師と連携し、付帯する訪問看護ステーションとの連携強化を図ります。

(4) 地域医療構想を踏まえた新たな役割

- ・前橋構想地域において不足する回復期機能の一翼を担います。

(5) その他

- ・精神科領域を合併した患者への対応体制を強化します。

2. 今後持つべき病床機能

第3次救急病院としての機能を維持しつつ、群馬県地域医療構想に鑑み、前橋構想区域の医療資源の充実に資するため、以下の機能を担います。

(1) 高度急性期機能の強化（2018年6月～）

- ・ ICUの増床
- ・ 救急病棟の増床

(2) 高度急性期機能を補完する機能の新規設置（2018年6月～）

- ・ 身体合併症対応の精神科病床の開設
- ・ 回復期病床の開設

3. 身体合併症対応の精神科病床を担う理由

これまで精神科疾患と身体疾患の合併した状態を診療する場所が大学病院以外なく、治療の場に難渋することがありました。現在、当院のような総合病院、大学病院だけでなく、一般病棟を有する精神科病院や、地域の総合病院と精神科病院との連携の場などでも、身体合併症を診ていく体制が群馬県内で求められています。また、当院の高度救命救急センターには自殺未遂による負傷者が多く搬送されて来ます。

そのことから、前橋赤十字病院では身体科医と精神科医が協力して身体合併症を診ていく診療体制を院内に整備する必要があると考え、協議・調整をして来ました。

2018年6月1日に移転後の新病院では身体合併症対応の精神科病床を設置し、地域医療のニーズに応えるとともに、当院の機能強化に努めています。

4. その他見直すべき点

医療需要の推移を加味して、最適な病床規模について検討して来ました。

第5章 具体的な計画

1. 4機能ごとの病床のあり方について

(1) 今後の方針（2019年10月一部改定）

前橋赤十字病院では地域医療構想における今後の方針（病床のあり方）を以下のよう
に定めています。

○一般病床

	現在（2019年度） （令和元年度病床機能報告）		将来（2025年度）
高度急性期	487	→	487
急性期			0
回復期	40		40
慢性期			0
（合計）	527		527

○その他病床

	現在（2019年度） ※病床機能報告以外の病床		将来（2025年度）
精神科病床	22		22
感染症病床	6		6
（合計）	28		28

※精神科病床は身体合併症対応の機能

◎総計（許可病床）

（合計）	555		555
------	-----	--	-----

(2) 病棟機能の重点的な継続強化と新設

主に以下の病床機能を重点的に継続強化・新設することを目標に掲げ、2018年
6月1日に新病院へ移転しました。

- ①高度救命救急センター機能の強化
- ②その他、高度急性期機能の維持
- ③身体合併症対応の精神科病床の新設
- ④回復期病床の新設

(3) 将来（2025年度）について

- ①一般病棟入院基本料急性期一般入院料1並びに特定入院料を算定する病棟は高度急性期としました。
- ②新設の回復期病床は回復期としました（新：40床）。
- ③新設の身体合併症対応の精神科病床（新：22床）、並びに感染症病床（新：6床）は独立した記載としました。

<年次スケジュール>

	取組内容	到達目標	(参考) 関連施策等
2017年度	○合意形成に向けた協議	○自施設の今後の病床のあり方を決定（本プラン策定） ○新たな病床機能の運用開始の準備 ○新病院の竣工	
2018年度	○地域医療構想調整会議における合意形成に向け検討	○新病院への移転（2018年6月1日） ○新たな病床機能の運用開始	
2019～2020年度			
2021～2023年度			

2. 診療科の見直しについて

現時点で見直しの予定はありません。

3. 群馬県地域医療介護総合確保基金の活用について

2019年12月現在、以下の事業について、「令和元年度事業費補助金」を調整中です。

- ・新人看護職員研修事業
- ・病院内保育所施設整備事業
- ・看護師特定行為研修支援事業

4. その他の数値目標（2025年度）について

（1）医療提供に関する項目

項目名	数値目標
① 病床稼働率	94.9%以上
② 入院診療単価	77,067円
③ 紹介率	70%以上
④ 逆紹介率	105%以上

（2）経営に関する項目

項目名	数値目標
⑤ 人件費率	50%以下
⑥ 医業収益に占める 人事育成にかかる 費用の割合	0.4%以下

※①②は、当院中長期ビジョン（新病院計画値）を目標としています。

※③④は、2018年度の当院実績をもと（同等の値）に、目標としています。

※⑤⑥は、2018年度の500床台の赤十字病院の平均値をもと（同等の値）に、目標としています。

第6章 新病院建設（2018年6月1日移転）

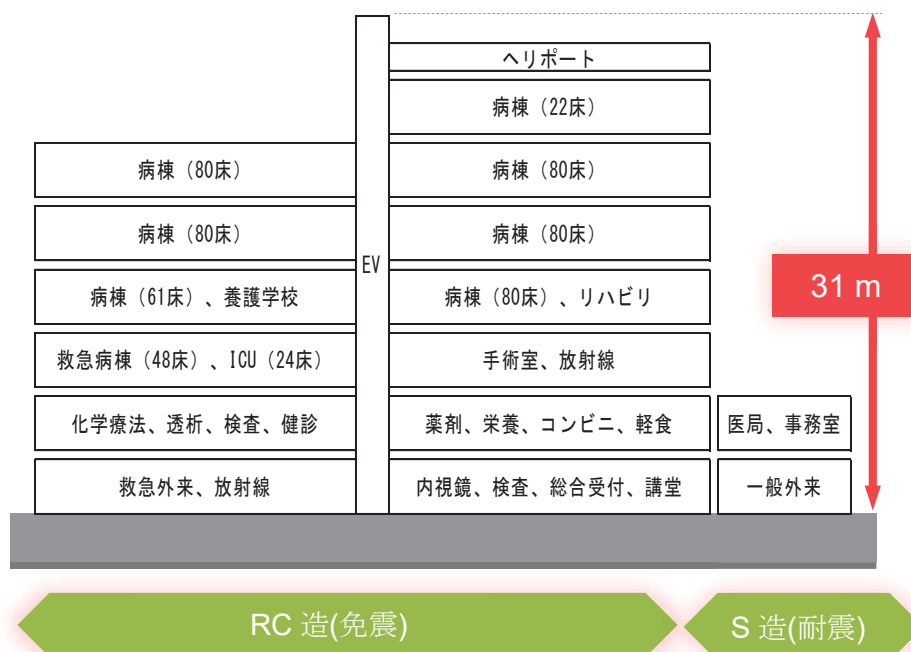
1. 新病院建設について

現状当院では、敷地及び建物の狭隘化、老朽化により患者さんの療養環境の低下や院内動線の迷路化、駐車場の不足といった問題を抱えており、多様化する医療ニーズや基幹災害拠点病院としての大規模災害発生時の対応が難しい状況にあります。そのため、これらの問題を解決し、安全で良質な医療の提供と当院が果たすべき役割・機能を十分に発揮するため、移転による全面建て替えを実施いたしました。

新病院では、施設設備だけでなく医療機能も充実強化し、前橋保健医療圏のみならず広く群馬県における高度急性期・救急医療を担う地域の中核病院として、また県内はもとより関東近県等における災害医療を担う基幹災害拠点病院として、これまで以上に信頼され安心・安全の拠りどころとなる病院を目指します。

2. 計画概要

- ・ 敷地面積 121,687.29 m²
- ・ 規模等 地下7階、搭屋1階、RC造、一部S造
- ・ 延床面積 56,531.34 m²
- ・ 病床数 555 床（一般527、精神22、感染6）
※一般病床再掲 重症72床、回復期40床
- ・ アクセス 前橋駅から約4 km
北関東自動車道前橋南ICから約3.4 km



3. 主たる医療機能

(1) 高度救命救急センター機能

前橋市民、群馬県民、隣接県民の命を救う最後の砦として、24時間、365日救急対応を行います。

(2) 高度急性期・地域医療支援病院機能

前橋保健医療圏での地域完結型医療の確立を目指します。

(3) 地域周産期母子医療センター機能

周産期での高度医療機能の充実、強化を目指します。

(4) 基幹災害拠点病院機能

自然災害に屈しない病院（医療、看護、建物）を目指します。

(5) がん診療連携拠点病院機能

質の高いがん医療提供（集学的治療、緩和ケア）を目指します。

(6) 身体合併症対応の精神科病床機能

身体合併症精神患者への医療提供の充実、強化を目指します。

(7) 回復期病床機能

回復期病床を有し、退院前のリハビリテーション機能を強化します。

4. 医療機能の充実・強化内容

(1) 救急医療の充実

～すべてのハード、機能を倍増へ！～

- ・重症病床の増床 36床 → 72床
- ・手術室の増設 9室（10床） → 14室（15床）

(2) 災害医療の充実

～自衛隊双発ヘリ、複数のドクターヘリの離着陸が可能に！～

- ・災害対応エリアの新設
- ・トリアージスペースの確保
- ・CBRNE災害への対応強化

(3) 入院・退院支援、各種相談、医療連携の強化

～サポート体制の充実、政策医療への対応！～

- ・患者支援センター、手術のための準備支援センターの新設
- ・回復期病床の新設 0床 → 40床
- ・在宅医療の強化



(4) がん治療の強化

～県内初導入 サイバーナイフ!～

- ・化学療法ベッドの増設 15 床 → 25 床
- ・放射線治療機器の増設 1 台 → 2 台



(5) 外来診療・入院環境の充実

～患者様、ご家族へのやさしさへ!～

- ・外来診察室の増設 51 室 → 69 室
- ・個室と4床室中心のベッドを配置

5. 新病院の基本方針

(1) コンセプト『みんなにとってやさしい、頼りになる病院』

このコンセプトには、患者さんやご家族、職員、自然環境などあらゆる面で「やさしい病院」にしたい、また当院が有している医療機能をより充実強化した「頼りになる病院」にしたいという想いが込められています。

(2) 患者、家族へのやさしさ

- ・患者、家族の要望に応えらえる急性期機能の整備
- ・わかりやすさとプライバシーへの配慮を兼ね備えた動線計画
- ・患者、家族が心休まる癒し空間の整備
- ・アメニティの充実による快適性の向上
- ・バリアフリーの実現

(3) 環境へのやさしさ

- ・環境負荷に配慮した病院づくり
- ・自然エネルギーの活用

(4) 職員へのやさしさ

- ・活力を生み出す働きやすい環境整備
- ・効率的な動線計画
- ・職員がリフレッシュできる癒しの空間設備
- ・教育、研修機能の充実

(5) 働きやすさへの対応

- ・病院内保育施設の充実 35 人 → 66 人
- ・前橋市在住または前橋市在勤の方を対象とした病児、病後児保育の新設
0 人 → 4 人

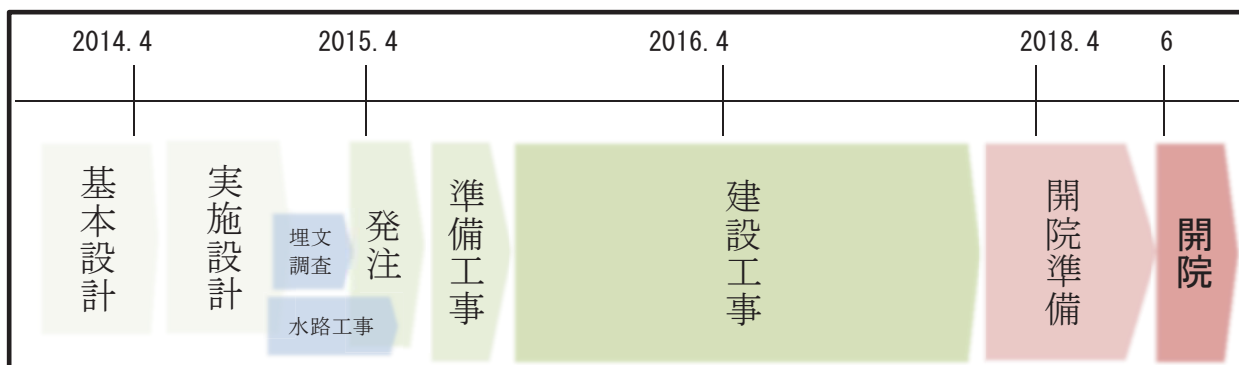
(6) 患者・家族やサポーターにとって頼りになる病院

(サポーター：行政、関係団体、地域の病院、診療所、医師会、業者など)

- ・前橋赤十字病院としての役割（災害、救急、がん、地域医療支援等）に応えられる機能の整備
- ・地域連携機能の充実
- ・計画的な物流動線の実現

6. 新病院の建設過程

2018年2月 竣工
2018年6月1日 開院



～ みんなにとってやさしい 頼りになる病院 ～

7. 新病院の構成

赤…高度急性期 (487)、緑…回復期 (40)
 青…精神科 (22)、紫…感染症 (6)

旧病院 (2018年5月末まで)				新病院 (2018年6月開院)		
病棟	病床数	主たる診療科目		病棟	病床数	主たる診療科目
ICU	12	全科対象(救急ICU)	⇒	3A	24	全科対象 (高度救命救急センター)
		全科対象(院内ICU)		3B	24	全科対象 (高度救命救急センター (CCU6床を含む))
高度救命 救急センター	24	全科対象 (CCU3床を含む)		3C	12	全科対象 (全てICU)
				3D	12	全科対象 (全てICU)
5号	58	小児全般 (NICU10床を含む)		4A	33	小児科全般 (NICU9床を含む)
12号	35	産婦人科		4B	28	産婦人科
6号	60	脳神経外科、神経内科、 眼科		4C	40	神経内科、脳神経外科、 救急科
				4D	40	リハビリテーション科
4号	59	泌尿器科、耳鼻咽喉科、 歯科、リウマチ・ 腎臓内科、救急科		5A	40	泌尿器科、リウマチ・ 腎臓内科、皮膚科
8号	57	呼吸器内科、呼吸器外科、 糖尿病内分泌内科、 放射線科		5B	34 6	呼吸器内科、呼吸器外科、 耳鼻咽喉科、感染症内科 ※第二種感染病床6床
東病棟	6	第二種感染症病床				
7号	58	心臓血管内科、血液内科、 心臓血管外科、 リウマチ・腎臓内科		5C	40	心臓血管内科、 心臓血管外科、糖尿病・ 内分泌内科、眼科
3号	60	整形外科、形成・美容外 科、皮膚科、脳神経外科		5D	40	整形外科、 形成・美容外科
9号	43	消化器内科、外科、 乳腺・内分泌外科		6A	40	消化器内科、外科
10号	50	消化器内科、外科、 乳腺・内分泌外科		6B	40	血液内科、 乳腺・内分泌外科、 放射線治療科
11号	54	消化器内科、外科、 乳腺・内分泌外科、 心臓血管内科		6C	40	消化器内科、外科、 総合内科、歯科口腔外科
				6D	40	消化器内科、外科、
健診 センター	16	人間ドック	7A	22	精神科	
合計	592床		合計	555床		

第7章 その他の実績について

1. 手術室統計

(1) 予定緊急別手術件数

予定・緊急	2017年度			2018年度		
	予定	緊急	計	予定	緊急	計
合計	5,476	918	6,394	5,110	781	5,891

(2) 麻酔別手術件数

管理・麻酔法	2017年度			2018年度		
	全身麻酔	局所麻酔	計	全身麻酔	局所麻酔	計
合計	4,015	2,379	6,394	3,944	1,947	5,891

(3) 手術稼働率（定時内稼働率 定時8:15~16:45）

	2017年度	2018年度
合計	67.1%	49.1%

※定時内入退室時間／総稼働可能時間

※2018年度については、旧病院から新病院への手術室増床に伴い、算出方法が異なるため数値が低くなっています。

2. 産婦人科統計

(1) 分娩件数（22週以降）

	2017年度	2018年度
合計	332	439

(2) 手術件数

	2017年度	2018年度
産科	142	147
婦人科	452	412
合計	594	559

3. 院内がん登録統計

5大がん	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
胃がん	233	145	172	162	154
大腸がん	303	187	255	250	245
肝がん	119	82	80	68	80
肺がん	251	180	184	233	246
乳がん	121	100	98	204	140
合計	1027	694	789	917	865

4. その他統計

(1) 人件費率

	2017年度	2018年度
合計	59.5%	61.9%

(2) 医業収益に占める人事育成にかかる費用の割合

	2017年度	2018年度
合計	0.5%	0.4%

※ (研究研修費 ÷ 医業収益) × 100

5. 救護班等の派遣状況

2016年度から2018年度の主な災害救護活動は、以下の通りとなります。

2016年度

(1) 熊本地震災害派遣(2016年4月14日、4月16日)

①日本赤十字群馬県支部 第1救護班(DMAT)

- ・派遣日程 2016年4月16日(土)～19日(火)
- ・派遣先 立川・DMAT事務局(ドクターヘリ統括本部)
- ・派遣人数 3名(医師1名、看護師1名、業務調整員1名)

②日本赤十字群馬県支部 第2救護班(DMAT)

- ・派遣日程 2016年4月16日(土)～18日(月)
- ・派遣先 熊本県 うまかな・よかなスタジアム(ドクターヘリ運航調整本部)
- ・派遣人数 6名(医師2名、看護師長1名、看護師1名、業務調整員2名)

③日本赤十字群馬県支部 第3救護班(コーディネート)

- ・派遣日程 2016年4月20日(水)～25日(月)
- ・派遣先 熊本県・阿蘇地域
- ・派遣人数 3名(医師1名、看護師1名、業務調整員1名)

④日本赤十字群馬県支部 第4救護班(救護班)

- ・派遣日程 2016年4月25日(月)～29日(金)
- ・派遣先 熊本県・阿蘇地域
- ・派遣人数 9名(医師3名、看護師長1名、看護師2名、薬剤師1名、主事2名)

⑤日本赤十字群馬県支部 第7救護班(救護班)

- ・派遣日程 2016年4月25日(月)～29日(金)
- ・派遣先 熊本県・阿蘇地域
- ・派遣人数 8名(医師2名、看護師長1名、看護師2名、薬剤師1名、主事2名)

併せて、日本赤十字社（本社）の調整により、熊本赤十字病院への支援要員を派遣しました。

①第1回派遣

- ・派遣日程 2016年4月19日（火）～26日（火）
- ・派遣先 熊本赤十字病院
- ・派遣人数 医師1名

②第2回派遣

- ・派遣日程 2016年5月3日（火）～8日（日）
- ・派遣先 熊本赤十字病院
- ・派遣人数 看護師2名

③第3回派遣

- ・派遣日程 2016年5月7日（土）～12日（木）
- ・派遣先 熊本赤十字病院
- ・派遣人数 医師1名

2017年度

(1) 草津白根山噴火災害（2018年1月23日）

①日本赤十字社群馬県支部 第1救護班（DMAT）

- ・派遣日程 2018年1月23日（火）10時39分～
- ・派遣先 西吾妻福祉病院
- ・派遣人数 7名（医師2名、看護師3名、業務調整員2名）

②日本赤十字社群馬県支部 第2救護班（DMAT）

- ・派遣日程 2018年1月23日（火）11時11分～
- ・派遣先 西吾妻福祉病院
- ・派遣人数 4名（医師2名、看護師1名、業務調整員1名）

③日本赤十字社群馬県支部 第4救護班（DMAT）

・派遣日程 2018年1月23日（火）11時40分～

・派遣先 群馬県庁

・派遣人数 4名（医師1名、看護師1名、業務調整員2名）

④日本赤十字社群馬県支部 第5救護班（DMAT）

・派遣日程 2018年1月23日（火）12時30分～

・派遣先 西吾妻福祉病院

・派遣人数 3名（医師1名、看護師1名、業務調整員1名）

2018年度

(1) 西日本豪雨災害（2018年6月28日～7月8日）

①日本災害医学会災害医療コーディネータサポートチーム

・派遣日程 2018年7月13日（金）～18日（水）

・派遣先 岡山県庁 等

・派遣人数 医師1名

②日本赤十字社群馬県支部 第1救護班（こころのケアチーム）

・派遣日程 2018年7月25日（水）～30日（月）

・派遣先 広島県・呉市

・派遣人数 3名（看護副部長1名、看護師長1名、主事1名）

③日本赤十字社群馬県支部 第2救護班（災害医療コーディネータチーム）

・派遣日程 2018年7月26日（木）～31日（火）

・派遣先 広島県・呉市

・派遣人数 5名（医師1名、看護師2名、薬剤師1名、主事1名）

(2) 群馬県防災ヘリ墜落事故(2018年8月10日)

①前橋赤十字病院 第1救護班(DMAT)

・派遣日程 2018年8月10日(金) 13時30分～

・派遣先 西吾妻福祉病院

・派遣人数 3名(医師2名、看護師1名)

②前橋赤十字病院 第2救護班(DMAT)

・派遣日程 2018年8月10日(金) 13時45分～

・派遣先 西吾妻福祉病院

・派遣人数 4名(医師1名、看護師2名、業務調整員1名)

③前橋赤十字病院 第3救護班(DMAT)

・派遣日程 2018年8月10日(金) 16時13分～

・派遣先 相馬原駐屯地

・派遣人数 2名(医師1名、看護師1名)

④県庁支援要員派遣

・派遣日程 2018年8月10日(金) 16時20分～

・派遣先 群馬県庁危機管理室

・派遣人数 看護師長1名

⑤前橋前橋赤十字病院 第4救護班(DMAT)

・派遣日程 2018年8月11日(土)

・派遣先 相馬原駐屯地

・派遣人数 3名(医師1名、看護師長1名、業務調整員1名)

(3) 北海道胆振東部地震(2018年9月6日)

①日本赤十字社群馬県支部 第1救護班(災害医療コーディネーターチーム)

・派遣日程 2018年9月8日(土)～12日(水)

・派遣先 日本赤十字社北海道支部 等

・派遣人数 3名(医師1名、看護師長1名、主事1名)

②日本赤十字社群馬県支部 第2救護班（救護班）

・派遣日程 2018年9月9日（日）～13日（木）

・派遣先 北海道勇払郡厚真町

・派遣人数 8名（医師2名、看護師長1名、看護師2名、薬剤師1名、主事2名）



～ みんなにとってやさしい 頼りになる病院 ～



日本赤十字社

前橋赤十字病院